あなたが　未来の小原のために　できること

おばらみらいプラン後期計画

[2019～2023 年度]

～　踏み出そう　みんなの力で　～

みんなの和で　元気な暮らし

未来につなぐ　里山おばら

WE LOVE おばら

2019 年 3 月　豊田市小原地域会議

活力ある里山おばらを目指して

平成26年からスタートしたおばらみらいプランも前期計画の5年が経過しました。この間、その計画に位置付けられた事業に沿ったわくわく事業団体始め各種団体の献身的活動により、少しずつではありますが目指すまちづくりに向かって着実に前進してまいりました。しかしながら、少子高齢化の波は止むことはなく新たな地域課題も顕在化しつつあります。

私たち小原地域会議では、後期計画策定に向けアンケートや様々な団体・グループからのヒアリングを通して、地域の課題を集約・共有化すると共にまちづくりの目指すべき方向性について議論を重ねてまいりました。その集大成として、ここに「おばらみらいプラン後期計画」を提示させていただく運びとなりました。

ようやく後期のスタート地点に立てたということで、これから目指す将来像に向かって各種取組を実践して行かなくてはなりません。「共感なきところに行動なし」と言われますが、この「おばらみらいプラン後期計画」は地域住民の多くの皆様方に十分共感していただけるものと確信しております。「小原を良くしたい」という思いは誰一人変わることはないはずであり、一人ひとり自分に何が出来るかを考え行動していこうではありませんか。

最後に、地域の皆さんが先ずは元気であることが活力ある里山おばらを築く上で欠かせません。皆様のご健勝を切に願うとともに、引き続いてのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年　3月

小原地域会議会長　**間瀬　正行**

おばらみらいプランの概要

～過疎化に負けないまちへ　～

おばらみらいプラン策定の経緯

小原地区では、人口の減少や高齢者の増加、農地や森林の荒廃といった多くの課題を抱えています。こうした状況の中で、「美しい里山おばら」を次世代につなぐためには、私たち地域住民が主体となって、地域課題に立ち向かう意識を持ち、協力し、実際に行動することが必要です。

そこで、地域（住民、集落、各種団体等）や支所など、様々な主体が同じ方向を向き、それぞれの立場で取り組むことができるよう、2013 年度（平成 25 年度）に今後の 10 年間のまちづくりの方向性をまとめた「小原地区まちづくり計画（愛称）おばらみらいプラン」を策定しました。

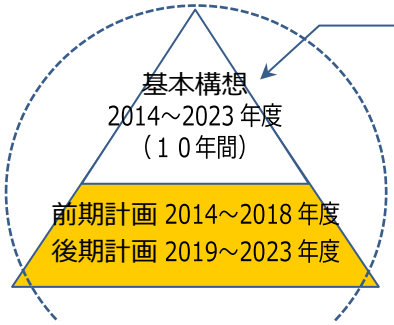
～　地域住民と共有する　まちづくりの道しるべ　～

おばらみらいプランの概要

おばらみらいプランは、小原地区が目指すまちづくりの方向性を明確にし、その実現に向けた取組を地域の様々な主体が共有して進めるための計画です。その内容は、まちづくりの基本理念や目標とする将来像を示した「基本構想」と、具体的な行動内容をまとめた「前期・後期計画」の 2 種類の計画で構成されています。

現在、小原地区では、このおばらみらいプランを地域住民共通の「道しるべ」としながら、地域と行政の共働のまちづくりを進めております。

小原地区まちづくり計画
おばらみらいプラン



■**基本構想**
まちづくりの考え方や目標とするまちの姿をまとめた 10 年間の計画

■**前期・後期計画**
具体的な取組内容をまとめた 5 年ごとの計画

【まちづくりの基本理念（地域住民共通のまちづくりの根本的な考え方）】

～踏み出そう　みんなの力で～
みんなの和で　元気な暮らし　未来につなぐ　里山おばら

【目指す将来像　（目標とする 10 年後の小原地区の姿）】

①子どもが伸び伸びと育つ安心で住み良い里山（地域ひとづくり）
②人と自然が共生した暮らしやすく豊かな里山（豊かな暮らし環境づくり）
③観光交流を地域の元気につなげる活力ある里山（魅力ある地域づくり）

計画期間

小原地区の取り巻く課題

～ 人口や高齢化の状況 ～

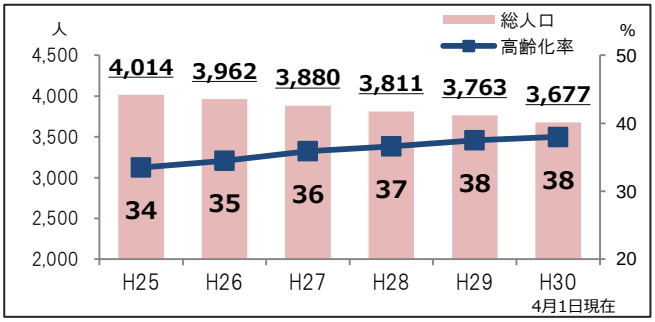
小原地区の人口・高齢化率の推移

小原地区では、この 5 年間で 337 人(8.4%)の人口が減少したほか、65 歳以上の高齢化率も 4 ポイント上昇しております。

その要因としては、生まれた子どもの数よりも亡くなった人の数が上回る自然減によるものが大きく、少子高齢化の影響が急速に進んでいる状況にあります。

このままの状態で推移した場合の 10 年後、20 年後の人口は、大幅に減少することが予測され、地域の支え合い活動の低下や里山景観の喪失、伝承文化の衰退など、まちづくりへの影響が懸念されています。

◎人口・高齢化率の推移



◎各年度の人口の動き （単位：人）

人口動態	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
合 計	△ 52	△ 82	△ 69	△ 48	△ 86
自然増減	△ 57	△ 78	△ 41	△ 50	△ 74
社会増減	5	△ 4	△ 28	2	△ 12

※自然増減：生まれた人と亡くなった人の数の差
※社会増減：転入した人と転出した人の数（市内転居含む）の差

～ アンケート結果 ～

地域住民が捉える地域課題

地域課題に関するアンケート結果では、多くの住民が「豊かな自然環境の保全」や「獣害対策の強化」と答えています。また、「若年層の定住促進策の拡充」、「空き家や耕作放棄地の対策強化」といった項目も非常に高くなっており、多くの住民が捉える地域課題として対策を検討する必要があります。

アンケート結果は、全 21 項目の地域課題のうち、「思う」「どちらかといえば思う」と答えた割合の多い項目です。

◎地域課題に関するアンケート結果 （単位：%）

地域の課題認識が高い項目（上位 10 項目）	H29
豊かな自然環境の保全	66.4
鳥獣害対策の強化	61.9
若年層の定住促進策の拡充	59.8
空き家や耕作放棄地の対策強化	59.8
公共交通機関の充実	56.5
郷土の歴史・伝統・文化の保存と再生	55.4
観光によるまちづくりの推進	54.4
生活道路・交通をスムーズにすること	52.2
農業・農地を保全すること	48.9
住民同士の交流の場や機会の拡充	48.9

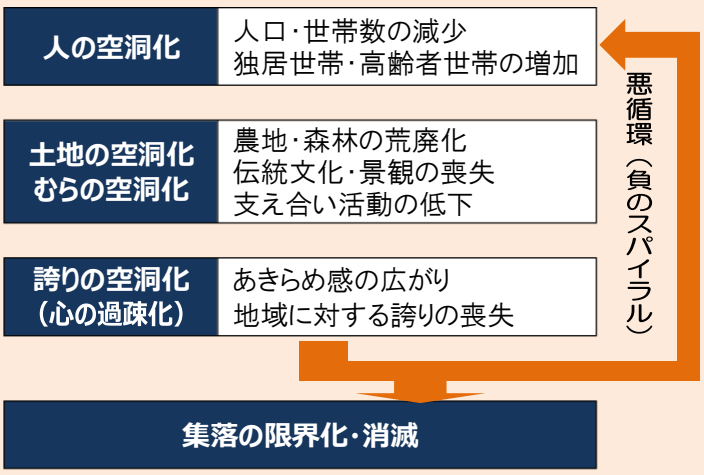
※H29 年度地域自治システム評価アンケート結果

《 参考 学術研究資料より 》

過疎化（集落の限界化）プロセス

人口・世帯数の絶対数が減少することにより「人の空洞化」が進み、それに伴って、農林地などの資源管理機能が低下する「土地の空洞化」や住民同士の生活扶助を行う機能が衰退する「むらの空洞化」が起こる。これに伴って、住民にあきらめ感が広がる「誇りの空洞化」が進むようになる。

こうした一連の負のスパイラルにより、地域や集落の限界化が進むと考えられている。



前期計画【2014～2018 年度（5 年間）】の総括

～前期 5 か年の取組効果の検証　～

小原地域会議による状態評価

これまでの事業の実績や活動団体へのヒアリング結果（H29 年度実施）、地域の状況（各種データ）、アンケート結果等を踏まえ、小原地域会議により目指す将来像と現在の小原の状態を比較・検証しました。

将来像	検証のポイント	状態評価		
		評価	理由（コメント）	参考データ
将来像1	①移住者の受入体制が充実している ②若者の移住が進んでいる ③若者が地域の担い手として活躍している	○	・若者主体の組織の設立があり、活動が見られるようになった。 ・空き家バンクを利用した若者移住が少ない。 ・移住後のサポート体制が不足している。	空き家情報バンク（利用移住者数） H25～H29 累計：37 人 人口動態増減数 H25～H29 累計：△37 人 若者を主体としたわくわく団体数 H30：2団体 市民意識調査「住み良さ満足度（40 歳代以下）」 H26：47.8%　H28：55.6% 子どもを育成するわくわく団体数 H30：1団体 空き家情報バンク（子育て移住世帯数） H25～H29 累計：4世帯
	①地域ぐるみで子どもを支える雰囲気になっている ②小原で子育てしたいと思える地域になっている	△	・子どもを対象にした地域行事が行われている。 ・子育て世帯への支援策や自然の中で子どもが遊べる場所が少ない。	
将来像2	①支え合いにより地域行事が続けられている ②性別や世代間を超えた住民同士の交流機会がある	○	・集まる機会の地域差はあるものの、住民が協力し合って行事が続けられている。	市民意識調査「地域活動への参加意欲」 H26：52%　H28：73.6% 市民意識調査「住み良さ満足度」 H26：57%　H28：62.2% 市民意識調査「定住意識」 H26：64%　H28：77.4% 地域自治システムアンケート「地域への誇りと愛着」 H26：75%　H29：80.4% ふれあいサロン数　H29：14 か所 森づくり会議・団地化数 H29 時点：会議数　9会議／14 団地 わくわく事業数 H26：12 団体　H30：12 団体
	①山林や農地が維持されている	△	・荒廃した山林や耕作放棄地が増えており、里山らしくない。 ・一部は手入れされているが、不在地主が多くなってきている。	
	①個人や団体により暮らしやすくするためのまちづくりが進められている	○	・制度（支障木伐採、防犯灯設置、不法投棄パトロールなど）を活用しつつ行動に移す人が増えた。 ・協力して良くしようとする動きが起きている。	
将来像3	①様々な地域資源を把握し魅力の発信ができている ②小原を訪れる人が増えている	△	・マルシェなど一部は進めているが、出来ることはまだあり、地域資源が生かされていない。 ・魅力ある地域資源の把握・発信・活用ができていないため来訪者が増えていない。	観光客数（年間）／四季桜まつり、寿楽荘、緑の公園、和紙のふるさと H25：237,867 人　H29：221,546 人 四季桜まつり入込客数 H25：138,453 人　H29：131,793 人 歌舞伎サポーター数 H25：246 人　H29：275 人 四季桜まつり出展者数 H25：22 店　H29：17 店
	①小原を体感（観る、触れる、味わう）できる観光メニューが増えている ②地域経済が活性化している	△	・一部の体験メニューは充実しているが、あまり進んでいない。 ・地域経済が活性化している実感はない。 ・お土産等を取扱う商店の減少により、商品開発の活性化に繋がっていない。	

評価／◎かなり見られる、○少し見られる、△ほとんど見られない、×全く見られない

後期計画【2019～2023 年度（5 年間）】の考え方

～ 後期計画の策定に向けて ～

後期計画の基本的な考え方

前期計画[2014～2018 年度]では、対策すべき 11 の課題分野と 15 項目の取組を進めてきました。小原地域会議では、これまでの事業の実績や効果、活動団体へのヒアリング結果、地域の状況、アンケート結果などを踏まえ前期計画を総括し、その内容を後期計画[2019～2023 年度]に反映させました。

前期計画から継承した考え方

①若者が住みたくなる地域、子育てしたくなる地域づくりを進める。
②暮らし環境を守り、お互いが支えあう地域社会づくりを進める。
③地域資源の魅力を磨き、連携させ、観光交流を促進させる。

前期計画[2014~2018 年度] 総括

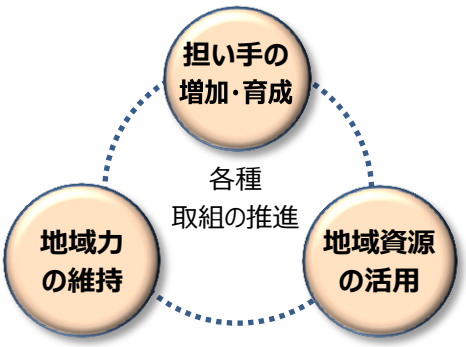
～ 今後に向けての課題 ～

◆若者や子育て世代の移住促進
◆荒廃した農地・山林の拡大防止
◆地域資源(ヒト・モノ・コト)の把握や活用
◆地域経済の活性化

対応策反映 ← 新たな地域課題

後期計画[2019~2023 年度] 策定

今後のまちづくりの展開イメージ



３つのポイントを中心に各種の取組を総合的に進める

～ 後期計画策定に向けた取組内容の見直し ～

後期計画の３つのポイント

後期計画[2019～2023 年度]では、前期計画事業の考え方を継承しつつ地域の状況などを踏まえ「担い手の増加・育成」「地域力の維持」「地域資源(ヒト・モノ・コト)の活用」の3つの視点を重要視し、関連する分野の取組の強化や見直しを行いました。

この3つの分野を計画の柱とすることで、地域の担い手となる人材を増やしつつ地域の力を結集し、既にある『ヒト、モノ、コト』を生かしながら、目指す将来像である「地域ひとづくり」「豊かな暮らし環境づくり」「魅力ある地域づくり」を進めていきます。

～ 目標実現に向けての重点 ～

後期 5 か年の重点施策

後期計画[2019～2023 年度]では、計画策定過程の中で、特に力を入れるべき4つの取組内容を重点施策として位置付けました。小原地域会議では、この重点施策を円滑に進めるための新たな仕組みや事業の検討を進め、地域の様々な主体が実践しやすい環境整備を進めます。

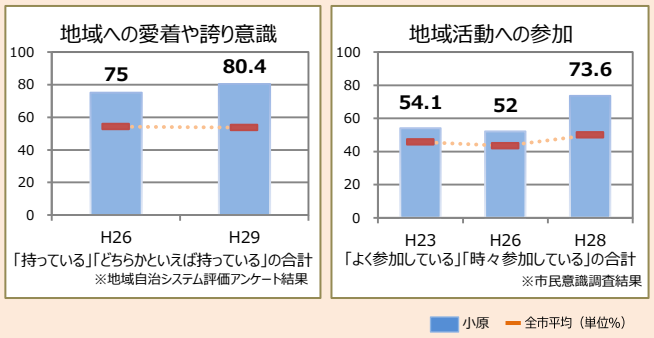
～ 前期５か年を終えて ～

小原地区のまちづくりの振り返り

小原地区のまちづくりは、少しずつですが、着実に前進しております。

小原地区の各所では、集落ぐるみの活動や自主グループの活動など、地域住民の皆さんによる貢献性の高い様々な活動が積極的に進められており、こうした動きが小原地区全体に広がりつつあります。その結果、少しずつですが、行動に移す人の増加や地元への愛着を持つ人の増加につながっております。

住民アンケートの結果



「WE LOVE おばら」を
みんなで実践しよう！

WE LOVE おばら

～ まちづくりの合言葉 ～

『WE LOVE おばら』の実践

「地元を良くしたい」という思いは、まちづくりの原動力です。今後の小原地区のまちづくりを加速させるためには、地域の全ての人々が共通して「小原を良くしたい」という思いを持ち、それぞれが協力して無理なく、できることから実践することが大切です。

後期計画[2019～2023 年]の実践に向けては、「WE LOVE おばら」を合言葉に掲げ、誰もが自慢でき誇れる小原を築きましょう。

～ 後期計画の推進 ～

目標実現に向けた取組の実践

各種取組の実践に向けては、地域（住民、集落、各種団体等）と行政との役割分担のもとで、わくわく事業や地域予算提案事業のほか、既存の仕組みや制度を活用するなどして、それぞれが知恵と工夫を凝らしながら取組を進めます。

また、小原地域会議では、この計画を基に効果的な事業や仕組みづくりを進めていきます。

～ まちづくりの進捗確認 ～

おばらみらいプランの進捗管理

後期計画の策定に向けては、様々な分野で活動している団体へのヒアリングを実施し、活動の様子や抱える課題などをお聞かせいただきました。小原地域会議では、関連事業の進捗状況や定期的に各種団体の活動状況を確認しつつ、進むべき方向性を地域住民の皆さんと共有しながら後期計画の各取組内容の進捗管理を行ってまいります。

◎まちづくりの基本理念（地域住民が共有するまちづくりの根本的な考え方）

～踏み出そう　みんなの力で～

みんなの和で　元気な暮らし　未来につなぐ　里山おばら

自然や文化が豊かで、心温かい人が暮らす小原地域が、子どもたちが大人になった時代も元気であるように、地域住民みんなが協力して、まちづくりに取り組みましょう。

◎まちづくりの方向性（目指す３つの将来像）

目指す将来像	目指す状態
①子どもが伸び伸びと育つ安心で住み良い里山（地域ひとづくり）	◎空き家や空き地の活用などの定住対策や、移住者に対するサポート体制の充実により、若い世代の移住が進み地域の担い手として活躍している状態 ◎子育て世帯間の交流や子ども主体の取組など、子どもが元気で伸び伸びと暮らすことを地域ぐるみで応援しており、小原で子どもを育てたいと感じることができる状態
②人と自然が共生した暮らしやすく豊かな里山（豊かな暮らし環境づくり）	◎住民同士の支え合いの中で地域行事が続けられており、こうした機会が世代間を超えた交流の場になっている状態 ◎山林や農地に人の手がしっかりと入った美しい里山風景が広がり、様々な自然の恩恵を受けることができる持続可能な環境が保たれている状態 ◎地域住民一人ひとりが山里小原での暮らしに愛着を持って、より暮らしやすくするためにまちづくりに取り組んでいる状態
③観光交流を地域の元気につなげる活力ある里山（魅力ある地域づくり）	◎自然や文化、芸術など小原にある様々な地域資源（ヒト、モノ、コト）の把握・発信ができており、国内外問わず多くの人が小原を訪れている状態 ◎小原の歴史や伝統、暮らし・文化に触れる観光メニューの充実により、観光客や地域住民による地域内消費が活発となり、新たな雇用やビジネスが生まれている状態

◎おばらみらいプランの全体像

基本構想
2014～2023 年度（10 年間）

後期計画
2019～2023 年度（5年間）

基本理念

みんなの和で　元気な暮らし　未来につなぐ　里山おばら
～踏み出そう　みんなの力で～

目指す将来像
目標とする姿

地域ひとづくり

子どもが伸び伸びと育つ
安心で住み良い里山

後期重点施策
特に力を入れて取り組むこと

- まちづくり団体と担い手リーダーの育成強化

後期基本施策
着実に取り組むこと

- 山村の強みを生かした移住（IJU ターン）の推進
- おばら暮らしの愛着の向上
- 地域ぐるみで子どもの成長を育む環境の充実

豊かな暮らし環境づくり

人と自然が共生した
暮らしやすく豊かな里山

- 持続可能な地域力の保持
- 親しみある里山林づくりの推進と保全

- 持続的な営農体制の整備と「たのしむ農」の普及
- 健康習慣の普及
- 地域力による暮らしの安心づくり

魅力ある地域づくり

観光交流を地域の元気に
つなげる活力ある里山

- 小原ならではの戦略的観光事業の実践

- 四季桜とモミジの維持管理体制の整備
- 地域資源を活かした観光商品の開発
- 豊田小原和紙の魅力を広めるプロモーション強化

目指す将来像１

～ 地域ひとづくり ～

子どもが伸び伸びと育つ安心で住み良い里山

＜目指すまちの姿＞

◎空き家や空き地の活用などの定住対策や、移住者に対するサポート体制の充実により、若い世代の移住が進み地域の担い手として活躍している。

◎子育て世帯間の交流や子ども主体の取組など、子どもが元気で伸び伸びと暮らすことを地域ぐるみで応援しており、小原で子育てしたいと感じることができるまちになっている。

WE LOVE おばら 実践事例の紹介

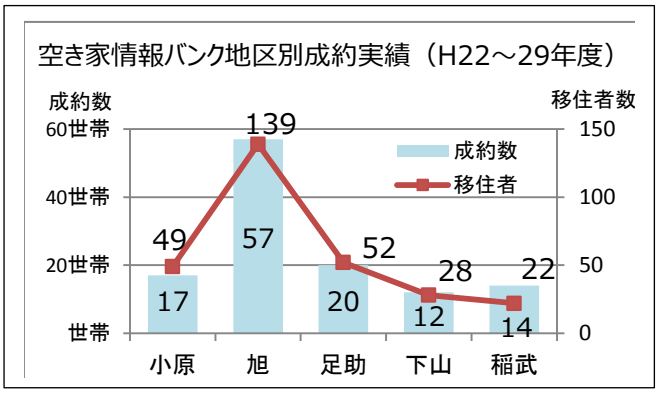
【大平自治区　若者定住促進の取組】

空き家情報バンク用の物件として、地域による空き家片付け大作戦が行われました。こうした取組が進められた結果、空き家情報バンクの課題であった新たな物件の発掘が進みました。

【わくわく事業団体　小原宴火の活動】

若者のグループによる手筒花火隊が結成され、おばら夏まつりや地域のお祭り、成人式でも会場を盛り上げています。こうした若い人たちの活気が、小原を元気にしています。

取組実績の紹介



小原地区では、これまでに空き家情報バンク制度を活用して 17 世帯 49 人の移住がありました。

平成 30 年度は、新規物件の発掘が進み、過去最高の８世帯 16 人の移住がありました。

取組分野
まちづくり
リーダー育成

目指す将来像１　子どもが伸び伸びと育つ安心で住み良い里山

おばら みらいプラン

【背景】
・各種団体の活動が、地元住民に広く知られていない。
・わくわく事業卒業後は、継続して活動する団体が減少している。また、活動団体同士の連携が図れていない。
・地域を引っ張っていく次代のリーダー的な人材が育っていない。
・一方で、わくわく事業団体に限らず、地域課題の解消に取り組む自主的な団体が多く存在している。

重点施策

まちづくり団体と担い手リーダーの育成強化

持続可能なまちづくりの推進に向け、小原地区の課題解決に取り組む団体や人材の育成のほか、団体同士の連携強化や仲間づくりの取組を進めます。

目的	地域が一体となって活動する意識の醸成を図ること。
内容	①若者を主体としたグループによる活動を支援し、同世代が移住したくなるまちの雰囲気づくりを進めます。 ②地域住民がまちづくり団体の活動を知り、体感できる取組を進めます。 ③地域に貢献するまちづくり団体の活力やノウハウ（知識・技術・経験）を幅広くまちづくりに生かせるようにし、地域課題の解消を図ります。 ④まちづくり団体同士が集まって情報交換する（仮称）まちづくりリーダーサミットを開催するなど、団体相互の連携や新たな取組につなげる環境づくりを進めます。

【役割分担と主な実施主体】

地域 **○**	地域・各種活動団体による実践
支所 **◎**	支所・地域会議による仕組みづくり

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■課題解決に取り組むまちづくり団体が増加している
わくわく事業団体数
12 団体（H30）⇒ **15 団体**

■地域が一体となったまちづくり活動が充実している
地域自治システム評価アンケート
「住民参加型のまちづくり」
55.4%（H29）⇒ **65%以上**

【主な取組手法や事業　など】
・わくわく事業地域ルールの見直し
・わくわく事業をきっかけとしたまちづくりへの参画
・データベース化したまちづくり活動情報の活用
・学生ボランティアの活用
・（仮称）豊田おばらPR隊＊1の創設
・（仮称）まちづくりリーダーサミット＊2の開催

＊1（仮称）豊田おばらPR隊：小原の魅力やまちづくりの状況を PR する組織　＊2（仮称）まちづくりリーダーサミット：様々な活動団体同士が集まり情報交換する場

【背景】
・豊かな自然があり都市部からも近い距離にある「ほどよい田舎」であるが、過疎化により地域の担い手が減少している。
・空き家は増加しているが、所有者は空き家の提供に消極的である。空き家情報バンクを利用した若者移住者が少ない。
・子育て世代が移住しやすい環境整備が進んでいない。
・一方で、若者主体の組織が立ち上がり、活気が出てきた。
・地域主体による空き家見学会が開催されるようになった。

基本施策

山村の強みを生かした移住（ＩＪＵターン）の推進

移住者を受け入れる体制の強化や小原での暮らしの情報発信、移住したくなる雰囲気づくりを進めるなど、地域特性を活かした定住対策を総合的に展開します。

目的	将来の地域を担う若者世代の移住者を増やすこと。
内容	①定住促進に関する交流イベントや若者たちによるにぎわいづくりなど、移住希望者と地域がつながる取組を進めます。 ②小原ならではの暮らしの情報や定住情報の発信を充実します。 ③物件見学会や空き家リフォーム塾の開催など、空き家や空き地を活用した定住対策の充実を図り、小原が移住先としての有力な候補として選択されやすいようにします。 ④移住後の地域との関わり状況を適宜把握し、地域ぐるみでサポートするなど、移住者を受け入れるための意識の醸成を図ります。

【役割分担と主な実施主体】

地域 ◎	定住促進会、ようこそ小原委員会、地域や若者会グループによる移住者の受入
支所 ○	支所・地域会議による移住者受入の仕組みづくり

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■子育て世代の移住世帯数が増加している
定住対策で移住した子育て世帯数
0.8 件/年（H25~29 年度平均）⇒ **３件/年**

■社会増減による人口減少が抑制されている
社会増減
△7.4 人/年（H25~29 平均）⇒ **０人/年**

【主な取組手法や事業など】

・空き家・空き地情報バンク制度の活用（子育て世帯に特化した受入体制の整備、空き家や空き地の登録促進）
・未利用市有財産の活用
・定住促進サポート事業【地域予算提案事業（定住イベントの実施）】
・おばらのじかん【地域予算提案事業（様々な情報発信ツールを活用した魅力発信）】
・（仮称）田舎暮らし塾＊1 の開催や小原暮らしコンシェルジュ制度＊2 の創設

＊1（仮称）田舎暮らし塾：おばらでの暮らしを紹介する体験交流会　＊2（仮称）小原暮らしコンシェルジュ制度：おばらでの暮らしを案内する仕組み

子どもが伸び伸びと育つ安心で住み良い里山

取組分野
定住促進

【背景】

・小原地区には、魅力的な地域資源（ヒト、モノ、コト）が多くあるものの、当たり前すぎて地元住民には知られていないことも多い。
・若い世代が郷土を知る・学ぶ機会が少ない。
・一方で、小中学校では地域とのつながりを大切にした授業が行われている。
・小原出身者の多くが、ふるさと小原に関心を持っている。

基本施策

おばら暮らしの愛着の向上

小原にある地域資源（ヒト、モノ、コト）の情報を、地域住民みんなで共有し活用できるようにするほか、子どもや若者が小原の歴史や文化、地域活動などを学ぶ機会を増やします。

目的	小原の事を考え行動する人や地元への愛着を持つ人を増やすこと。
内容	①小中学校の児童生徒が小原の事を調べた成果を発表する機会を増やし、地域住民と共有します。 ②小原の過去の刊行物（資料）を刷新し、地域住民が活用できるようにします。 ③住民が撮影した写真や取材記事などを、情報発信に活用していきます。 ④地域のお年寄りから「昔の小原」についての話を聞く「聞き書き」を実施し、当時の様子を資料としてまとめます。 ⑤子どもや若者に郷土の文化を伝える活動グループの取組を支援します。

【役割分担と主な実施主体】

地域 △	地域・小中学校・各種活動団体による事業協力
支所 ◎	支所・地域会議による実施内容や仕組みづくりの検討

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■住みよいと感じている若い世代の割合が増加している
市民意識調査「住みよさ満足度(40 歳代以下)」
55.6%（H28） ⇒ 65%

■郷土の歴史・文化に誇りや愛着を持っている若い世代の割合が増加している
市民意識調査「歴史・文化への誇りや愛着（40 歳代以下）」
25.9%（H28） ⇒ 40%以上

【主な取組手法や事業など】

・わくわく事業を活用した地域文化の継承活動
・様々な広報媒体を活用した情報発信（おばらのじかん【地域予算提案事業】やおばらだよりの活用）
・まちづくり発表会などでの小中学校の発表機会の拡大
・訪問サポーター【地域予算提案事業】と連携した聞き書きの実施
・地域と学校との連携強化（地域学校共働本部との連携）
・小原歌舞伎伝承事業での後継者育成
・住民が集めた写真や資料の共有・活用
・各種刊行物資料の刷新とデータベース化
・（仮称）子ども地域会議制度＊1の創設

＊1（仮称）子ども地域会議制度：子どもが提案した内容をまちづくりに反映される仕組み

取組分野
子育て・子育ち

目指す将来像１　子どもが伸び伸びと育つ安心で住み良い里山

おばら みらいプラン

【背景】
・交流館講座や子育て支援センターなど、子どもの居場所づくりの取組が充実しているが広く知られていない。
・母親同士が交流できる機会が不足している。
・子どもが外に出て自然の中で遊べる場所が少ない。
・一方で、学校や子ども園で、地元住民を講師とした昔の遊びや外遊びを伝承する機会がつくられているほか、住民グループによる読み聞かせが行われている。

基本施策

地域ぐるみで子どもの成長を育む環境の充実

各年代が子どもと交流できる機会を創出するとともに、学校と地域との連携強化により、地域ぐるみで子どもを育てる取組を進めます。

目的	安心して子どもを育てられる地域環境を築くこと。
内容	①子どもや保護者が交流する機会を増やします。 ②昔の遊びなどを通じて地域のお年寄りと子どもが交流する取組を進めます。 ③地域全体で学校行事を応援するなど、地域学校共働本部と連携し、地域と学校が共働で活動する機会を増やします。

【役割分担と主な実施主体】

地域 **◎**	コミュニティ・スクール・地域による企画・実践
支所 **△**	支所による活動協力

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■子どもと関わる活動への地域住民の参加が進んでいる
市民意識調査「児童生徒と行う地域活動への参加」
37.7%（H28）　⇒　45%以上

■子どもを産んで育てられる環境が充実している
市民意識調査「子育て満足度」（7段階で5以上）
21.7%　⇒　30%以上

【主な取組手法や事業など】
・子ども見守り活動の継続（交通安全推進協議会活動）
・地域と学校との連携強化（地域学校共働本部との連携）
・放課後児童クラブ運営の継続
・【再掲】（仮称）子ども地域会議制度の創設
・【再掲】小原歌舞伎伝承事業での後継者育成
・わくわく事業を活用した子どもの居場所づくり（遊び場づくり、昔遊び伝承講座の実施など）

目指す将来像　２

～豊かな暮らし環境づくり　～

人と自然が共生した暮らしやすく豊かな里山

＜目指すまちの姿＞

◎住民同士の支え合いの中で地域行事が続けられており、こうした機会が世代間を超えた交流の場になっている。

◎山林や農地に人の手がしっかりと入った美しい里山風景が広がり、様々な自然の恩恵を受けることができる持続可能な環境が保たれている。

◎地域住民一人ひとりが山里小原での暮らしに愛着を持って、より暮らしやすくするためにまちづくりに取り組んでいる。

WE LOVE おばら 実践事例の紹介

【わくわく事業団体　里山　和の取組】

里山　和（平畑町）では、都市部の企業のボランティアの応援を得て矢作川河川敷の竹林の伐採や花木の植栽など、都市部の活力を活かした取組が進められています。こうした都市部の活力を活かした取組は、今後の小原地区のまちづくりの先進事例となっています。

【わくわく事業団体による　健康づくりの取組】

城山元気会（市場町）やチャレンジ大平（大平町）、大坂カラダ塾（大坂町）では、毎月定期的に集会場に集まり、脳トレーニング、ストレッチ、筋力トレーニングなど、住民の健康づくり活動を行っています。

取組実績の紹介

小原地区では、わくわく事業を活用して、住民グループ主体による様々な分野の取組が進められており、こうしたまちづくりの輪が広がっています。

事 業 分 類	H26	H27	H28	H29	H30
①保健、医療、福祉の推進	1	1	1	2	2
②伝統、文化、スポーツの振興	2	2	2	2	5
③安心・安全な地域づくり	0	0	2	1	1
④生活環境改善、景観づくり　自然環境保全	8	5	2	3	2
⑤子どもの健全育成	1	1	1	0	1
⑥地域特性を生かした産業振興	0	0	0	0	1
⑦地域づくりに有効な助言や提案を受けるための事業	0	0	0	0	0
⑧その他個性豊かな住みよい地域社会を構築するための事業	0	0	0	2	0
事業件数（件）	12	9	8	10	12
うち新規団体数	2	0	4	2	3

【背景】
・地域の担い手が減少し、地域活動の実施が困難な状況になりつつある。
・集落によっては役が増えている。やる人も固定されている。
・役員交代により課題が上手く引き継がれておらず改善までには至らない。
・一方で、都市部の企業やボランティアの協力を得て環境整備などを行っている集落もある。

重点施策

持続可能な地域力の保持

人口減少社会を見据え、各地域がそれぞれの事情にあった運営方法をみんなで考え、実践できるようにするほか、地区内外で活動する各種団体や企業の活力をまちづくりに生かした取組を進めます。

目的	住民同士の支え合いの中で地域課題の解消を図ること。
内容	①自治区・町内会と連携して地域行事や運営体制などの現状を整理した「（仮称）地域運営カルテ」を作成し、地域運営の継続に向けた検討を支援します。 ②都市部のボランティア団体や企業が地域活動を応援する仕組みの検討を進め、実践します。 ③わくわく事業がより活用されるよう運用方法の見直しを進めます。

【役割分担と主な実施主体】

地域 **◎**	自治区や町内会組織による運営体制の整理・検討
支所 **○**	支所・地域会議による（仮称）地域運営カルテの内容検討、地域への支援

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》
■自治区・地域活動に参加している人の割合が維持されている
市民意識調査結果「自治区・地域活動への参加」
73.6%⇒現状維持（73.6%以上）

【主な取組手法や事業】
・わくわく事業地域ルールの見直し
・活動団体同士の連携の促進、活動団体のノウハウのまちづくりへの活用
・地域運営の現状整理支援（（仮称）地域運営カルテ*1 作成）
・集落活動応援隊や都市部企業の社会貢献活動の活用（おいでんさんそんセンターの活用）

＊1（仮称）地域運営カルテ：人口や世帯数、地域の行事など、各地域の状況をまとめた資料

【背景】

・山林の荒廃化が進み、人が入り辛くなっているほか、山への関心が希薄になりつつある。
・森づくり会議や団地化事業が進められているが、小原地区での普及は進んでいない。不在地主も多くなってきている。
・一方で、わくわく事業でシデコブシの保全整備された里山もあり、多くの人に山林に関心を持ってもらう取組が進められている。

重点施策

親しみある里山林づくりの推進と保全

森づくり会議や団地化による人工林間伐の推進など、既存の制度を活用して森林整備を進めるほか、森林にふれあうことができる取組を進めます。

目的	多様な機能を有する森林の保全及び里山林に関心を持つ市民を増やすこと。
内容	①森づくり会議や団地化を推進し人工林の間伐を進めます。 ②森林資源の利活用に関する勉強会を開催するなど、間伐の促進や木材の効果的な活用方法の検討を進めます。 ③野生キノコの講習会や山遊びイベントの開催など、里山林に触れ合い親しむことができる機会づくりを進めます。

【役割分担と主な実施主体】

地域 **◎**	森林所有者・各種団体による実践
支所 **○**	支所・地域会議による（仮称）おばら版木の駅プロジェクトなどの仕組みづくりの検討

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■森づくり会議・団地化が増加している
9 会議 14 団地化（H29）⇒現状以上

■各種団体等により里山林に親しむ活動が実施されている

【主な取組手法や事業など】

・森づくり会議・団地化の推進
・都市部企業等と連携した植林
・（仮称）おばら版木の駅プロジェクト＊1 の検討
・他地区との情報交換の実施や事例把握
・わくわく事業を活用した教室や催しの開催
（観察会、山遊び、間伐講習、野生キノコ講習会、トレース整備・ラリー競技など）

＊1（仮称）おばら版木の駅プロジェクト：出荷された木材（間伐材）に価値が生み出される仕組み

【背景】
・農家の高齢化や後継者不足に伴い耕作放棄地が増加している。耕作放棄地解消に向けた取組を進めているが再生利用までは至っていない。
・依然として獣害被害が多い。
・地域のお年寄りの農業スキルが継承されていない。
・一方で、ブランド米（おばら四季桜米）ができたことで、農家のモチベーションアップにつながっている。

基本施策

持続的な営農体制の整備と「たのしむ農」の普及

地域営農の組織化や体制づくりの検討を進めるほか、専業から趣味的な農業を楽しむ人まで、農業を実践する人を増やす取組を進めます。

目的	耕作している既存の農地を維持すること。
内容	①おばら米のブランド化により小原産のお米の品質と価値を高め、農家の『やりがい意識』や『はりあい』づくりを進めます。 ②獣害対策に関する各種支援制度や有効手段の情報を収集し、情報提供するなどして集落ぐるみによる獣害対策の実施を支援していきます。 ③気軽に農業を学べ体験できる機会を増やし、趣味で農業をしてみたい人を増やしていきます。 ④小原地域営農協議会の取組に協力し地域営農の組織化や体制づくりの検討を進めます。 ⑤都市部の住民や企業を対象に遊休農地を活用した農業体験や交流事業の実施に向けた検討を進めます。

【役割分担と主な実施主体】

地域 **◎**	農家・小原地域営農協議会などによる集落営農の組織化の検討、ブランド米の生産・販売
支所 **○**	支所・地域会議による農業体験や交流事業などの実施支援

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》
■耕作放棄地の拡大が防止されている
地域情報カルテ耕作地面積
278ha⇒現状維持（278ha 以上）
■農地を活用した教室や農業体験が実施されている

【主な取組手法や事業など】
・おばら米ブランド基準やこよみの周知、会員農家の拡大、販売促進
・おいでん・さんそんセンターと連携した都市部の企業等の社会貢献活動の受入
・耕作放棄地整備支援事業【地域予算提案事業】
・小原営農協議会での集落営農の検討
・獣害対策関係制度の活用促進
・他地区の事例の把握、情報交換の実施
・農業体験や教室の開催、（仮称）貸山里＊1の検討・実践
・グリーン畦畔＊2の実施検証

＊1（仮称）貸里山：農地や森林を貸出し里山に親しんでもらう仕組み　＊2 グリーン畦畔：農地の畦畔に芝を植栽し草刈作業の負担を軽減させる取組

【背景】

・豊田市平均に比べ小原地区では運動習慣や生活習慣の改善意識が低い傾向にある。
・小学生以下の子どもの肥満率やう歯有者率が高い。
・スポーツ推進員やヘルスサポートリーダーによる健康づくりの取組が積極的に行われている。
・各所では、元気アップ教室やふれあいサロンが積極的に行われている。

基本施策

健康習慣の普及

子どもからお年寄りまで、誰もが楽しく気軽に健康づくりにチャレンジできる環境整備を進めるとともに、健康づくりに取り組む各活動団体との連携した普及活動を展開します。

目的	住民一人ひとりの健康意識を高めること。
内容	①スポーツ推進員と連携し、子どもからお年寄りまでが一緒に楽しめる運動や誰もが参加できる体力測定を実施します。 ②ふれあいサロンの代表者情報交換会を開催し、抱える課題やその解決策の情報共有を図ります。 ③ヘルスサポートリーダーと連携した教室の開催など、食と健康についての普及活動を進めます。

【役割分担と主な実施主体】

地域 ◎	各種健康づくり団体による企画検討・実践
支所 △	支所・地域会議による側面支援、団体や大学連携の仕組みづくりの検討

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■健康な人の割合が増加している
市民意識調査
81.1%（H28）⇒現状維持（81.1%）

【主な取組手法や事業など】

・体力測定対象者の拡充（大学と連携した測定結果の分析・助言）
・ふれあいサロン代表者意見交換会の開催、サロン開催の支援
・ヘルスサポートリーダーとの連携・活動支援
・スポーツ推進員との連携
・健康づくりのわくわく団体との連携
・幅広い世代が参加できるニュースポーツの実施（ボッチャなど）

取組分野
暮らしの安心

目指す将来像２　人と自然が共生した暮らしやすく豊かな里山

おばら みらいプラン

【背景】
・全国各地でゲリラ豪雨や土砂災害が頻発しているほか、この地域では東南海地震の発生が懸念されている。
・毎年9月1日には、小原地区内各所で地域ぐるみによる防災訓練の実施が継続されている。
・近年、不審者の発生や振り込め詐欺などが発生している。
・地域住民による登下校時の子どもや高齢者世帯の暮らしの見守り活動が行われている。

基本施策

地域力による暮らしの安心づくり

住民相互のつながりや支え合いにより、防災・防犯対策の取組の推進を始め地域の子どもやお年寄りの見守り活動を進めます。

目的	安心して暮らせる地域づくりを進めること。
内容	①土砂災害や地震災害に備えた訓練を開催するなど、消防団や自主防災会と連携して地域の防災体制の強化と地域住民の防災・減災意識の向上を図ります。 ②独居世帯や高齢者世帯への訪問活動など、民生児童委員や訪問サポーターと連携してお年寄りの暮らしの不安を解消します。 ③地域による通行支障木の伐採や防犯灯設置、地域の見守りパトロールの継続実施など、子どもたちが安心して通学できる環境づくりを進めます。 ④地域の不法投棄パトロール隊と連携し、ゴミの不法投棄防止を進めます。 ⑤地域と連携し、おばら桜バス利用者のニーズに合ったバス停の設置や利便性向上の取組を進めます。

【役割分担と主な実施主体】

地域 ◎	地域や各種活動団体（消防団、民生児童委員、不法投棄パトロール隊など）による実践
支所 △	支所・地域会議による活動への側面支援

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■防災訓練参加者が増加している
市民意識調査「いつも参加している」
56.6%（H28）⇒60%以上

■良好な近所づきあいが続いている人の割合
市民意識調査「普段から行き来する 40.6」「困ったときに協力し合う 29.2」
69.8%（H28）⇒70%以上

【主な取組手法や事業など】

・毎年 9/1 の防災訓練の継続実施
・災害に備えた新たな訓練会の検討
・要支援者への見守り支援
・ささえあいネットの普及促進
・訪問サポーターの普及、独居世帯への見守り活動 【地域予算提案事業】
・通行支障木の伐採【地域予算提案事業】
・不法投棄パトロール活動
・おばら桜バスの運行維持や利用促進策の実施

目指す将来像３

～ 魅力ある地域づくり ～

観光交流を地域の元気につなげる活力ある里山

＜目指すまちの姿＞

◎自然や文化、芸術など小原にある様々な地域資源（ヒト、モノ、コト）の把握・発信ができており、国内外問わず多くの人が小原を訪れている。

◎小原の歴史や伝統、暮らし、文化に触れる観光メニューの充実により、観光客や地域住民による地域内消費が活発となり、新たな雇用やビジネスが生まれている。

WE LOVE おばら 実践事例の紹介

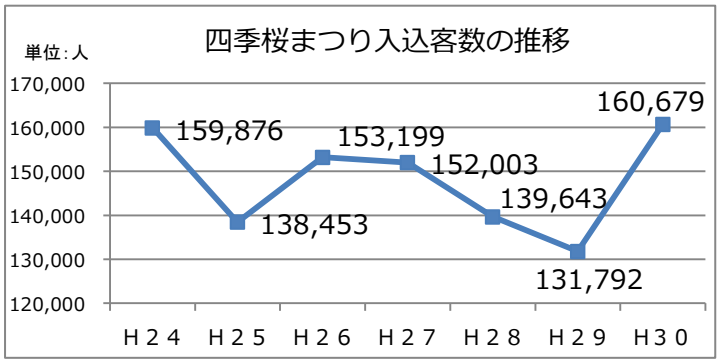
【おばらマルシェ・４１９市の取組】

地域の活性化に向け、地域住民グループで『おばらマルシェ』や『４１９市』が開催されています。小原産の農産物や手作りの加工品など、小原ならではの品物も多く、どちらのイベントも、毎回、多くの来場者でにぎわっています。こうした取組が地域の活性化につながっています。

【四季桜愛護会の取組】

四季桜愛護会では、平成２５年２月に発足以降、管理方法を学びながら四季桜のメンテナンス作業を行っています。こうした活動が、小原地区のシンボルである四季桜を後世につないでいます。

取組実績の紹介



四季桜まつりは、平成 21 年度の約 19 万人をピークに来場者が右肩下がりで減少しています。しかし、平成 30 年度は、四季桜の咲が良く天候にも恵まれた結果、多くの観光客でにぎわいました。

目指す将来像３　～ 魅力ある地域づくり ～

【背景】
・四季桜まつりを始め、小原を訪れる観光客が減少している。
・年間を通じた観光プロモーションと内容の充実が進んでいない。
・四季桜シーズン以外にも訪れたくなる施策やお金が落ちる仕組みが不足している。
・他の観光地と比べ、地域の「おもてなし力」が不足している。
・一方で、おばらマルシェの開催など、新たな取り組みも進められている。

重点施策

小原ならではの戦略的観光事業の実践

年間を通した誘客と小原独自の質の高いおもてなしの取組を進めることで、いく度も訪れたくなる小原のイメージを高めます。

目的	小原を訪れる観光客の増加を図ること。
内容	①小原ならではのお土産品や食事（弁当）、体験ツアーなど、小原独自のおもてなしの取組を進めます。 ②山遊びや川遊びなど、年間を通した観光資源の発掘や、それらを活用した体験型の観光商品（事業）の企画・実践を進めます。 ③接客やおもてなしに関する勉強会や研究会の開催など、接客力の向上につながる取組を進めます。 ④イベント内容やおもてなし環境の充実により、四季桜まつりの魅力向上を進めます。 ⑤足助の香嵐渓や旭のシダレモモなど、他地区の魅力的な観光事業と連携した取組を検討し、観光客の満足度アップを図ります。

【役割分担と主な実施主体】

地域 ◎	観光協会・地域事業者（お店）、各種団体などによる実践
支所 ○	支所・地域会議による観光資源活用に向けた仕組みづくり

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》
■おもてなしの取組や体験型観光商品化が増加している
■観光客の満足度が UP している
ツーリズムとよた市内観光対面調査四季桜まつり満足度（H29）
26.6%　⇒　50%

【主な取組手法や事業　など】
・さくら山施設（川見・雑敷）活用プランの策定【地域予算提案事業】
・おもてなし力向上に向けた勉強会や研究会の開催
・他地区との情報交換と連携事業の検討
・おばらマルシェ開催支援【地域予算提案事業】
・観光資源の調査・活用の検討（ツアー向け弁当の販売、川遊び・山遊びの商品化、SNS の活用など）
・観光商品化（土産物、弁当、食事、ツアー、体験型のアクティビティ等）の研究や実践者への支援

【背景】

・近年、四季桜が老木化し開花が悪くなりつつある。
・四季桜の剪定・施肥作業など、しっかりとした管理計画がなく、管理が十分に行き届いていない。
・一方で、四季桜愛護会により四季桜の名所の愛護活動が進められている。
・わくわく事業団体により四季桜の長寿化に関する研究も進められている。

基本施策

四季桜とモミジの維持管理体制の整備

四季桜とモミジの適切な育成と小原全体における管理体制を具現化することで、安定した四季桜の開花とモミジの色付きを促します。

目的	四季桜がある美しい風景を保全すること。
内容	①小原の名所が保全され毎年安定した風景を楽しめるよう、四季桜とモミジのバランス良い植樹による持続的な維持管理に向けた管理計画を策定し実行します。 ②都市部住民による応援隊の結成など、都市部との共働による管理体制の検討を進めます。 ③育成講座の定期開催など、四季桜苗木生産者を育成するための取組を進めます。 ④各種団体が実施する四季桜の長寿化や安定的な開花に向けた調査研究活動を支援します。

【役割分担と主な実施主体】

地域 ◎	観光協会、愛護会団体、わくわく事業団体などによる実践
支所 ○	支所・地域会議による活動の側面支援

※役割分担:◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■四季桜とモミジの育成管理計画が策定され、維持管理されている
維持管理計画の策定
未策定 ⇒ 策定済

■四季桜とモミジを維持管理する活動が継続的に実施されている
愛護会による活動
4回/年 ⇒ 維持

【主な取組手法や事業など】

・四季桜愛護会への活動支援
・わくわく事業を活用した四季桜の保護活動
・雑敷里山林整備地の四季桜などの植栽活動【地域予算提案事業】
・都市部ボランティアと連携した植栽・管理(おいでんさんそんセンターと連携)
・四季桜育成講座の実施
・維持管理計画の策定【地域予算提案事業】

【背景】
・和紙や歌舞伎、四季桜以外にも様々な観光資源はあるものの活用がされておらず、観光商品化に結びついていない。
・気軽にできる体験や手軽なお土産品などが少ない。
・一方で、お菓子やパンを作る人など、小原の中にも知られていない人材も多い。
・外国人観光客が増加しているほか 2020 年豊田国際紙フォーラムの開催もあり、小原独自の商品を広める機会である。

基本施策

地域資源を活かした観光商品の開発

地域にある人材やモノのほか既存の行事など、様々な地域資源を活用・連携させ、小原を訪れる人々が魅力的と感じる観光商品を開発・販売します。

目的	観光産業の活性化及び魅力向上につなげること。
内容	①文化的なノウハウや技術を持つ作家や職人とコラボした観光商品化の取組を進めます。 ②お菓子やパンなど、既に小原で製造している職人の発掘または実践する人材を新たに呼び込み「小原自慢の商品」として応援（側面支援）する仕組みを検討します。 ③地域にある様々な「モノやコト」を体験事業として観光商品化するための研究や勉強会の開催を支援するなど、新たな担い手が商品開発にチャレンジしやすい環境を整備します。 ④小原の素材以外にも市内の他地区にある優れた素材を活かした融合商品の開発を進めます。

【役割分担と主な実施主体】

地域 ◎	観光協会・地域事業者（お店）、各種団体などによる実践
支所 ○	支所・地域会議による側面支援

※役割分担：◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》
■コラボ商品の開発販売が増加している
■四季桜まつり期間中の観光客の消費額が増加している
ツーリズムとよた市内観光地対面調査
「日帰り客一人当たり平均支出額」
2,314 円（H29）⇒2,500 円以上

【主な取組手法や事業など】
・観光資源開発支援事業（観光協会補助事業）
・（再掲）おばらマルシェ開催支援【地域予算提案事業】
・おばらブランド米の普及
・職人の発掘（人材バンク）
・（再掲）観光資源の調査・活用の検討（ツアー向け弁当の販売、川遊び・山遊びの商品化、SNS の活用など）
・（再掲）観光商品化（土産物、弁当、食事、ツアー、体験型のアクティビティ等）の研究・勉強会開催支援

観光交流を地域の元気につなげる活力ある里山

取組分野
和紙文化の振興

【背景】

・和紙のふるさとを訪れる来訪者が年々減少傾向にある。
・豊田小原和紙の魅力は高いものの地域の産業に結びついていない。
・一方で、小中学校で和紙に関する授業が行われており郷土愛の醸成に結びついている。
・2020 年豊田国際紙フォーラム開催が決定しており、世界に魅力を発信することが期待されている。

基本施策

豊田小原和紙の魅力を広めるプロモーション強化

2020 年豊田国際紙フォーラム開催を契機に豊田小原和紙の芸術性とブランド力を更に高めるとともに、来訪者の受入体制や情報発信を強化します。

目的	地域文化の向上と観光交流人口の増大を図ること。
内容	①コウゾや漆など質の高い小原産材の安定的な生産に向けた研究を進めるとともに、生産拡大に向けた仕組みづくりを進めます。 ②商品開発や和紙を使った暮らしの紹介など、豊田小原和紙の魅力を発信する地域の人材を増やし、豊田小原和紙のブランド力向上につながる取組を進めます。 ③工芸作家の育成を図る取組を検討します。 ④豊田小原和紙の魅力や知名度を高めるための情報発信と創作活動への支援を強化し、イメージアップや和紙のふるさと来館者数の増加を目指します。 ⑤他の地域資源とコラボしたメニューや生活に密着した品物の製作など、豊田小原和紙の魅力を活かした集客力の高い体験メニューの充実を図ります。 ⑥2020 年豊田国際紙フォーラムを契機とした、来訪者のおもてなし体制の充実を図ります。

【役割分担と主な実施主体】

地域 ○	豊田小原和紙工芸会、和紙のふるさと運営協議会による取組の実践
支所 ◎	和紙のふるさと・支所による企画・取組実践

※役割分担:◎主体、○連携、△協力・サポート

《目指す状態》

■和紙工芸に触れる機会が増加している
和紙のふるさと入込客数
28,555 人（H29）⇒ 39,000 人（過去 5 年間の平均）

■和紙工芸の原材料となるコウゾや漆の生産範囲が拡大している
コウゾ・漆等栽培面積
8,500 ㎡ ⇒ 10,000 ㎡

【主な取組手法や事業など】

・2020 年豊田国際紙フォーラムの開催
・わくわく事業を活用した魅力発信
・漆、コウゾ栽培・生産と活用
・大学との共働による商品開発や情報発信
・後継者育成事業の検討
・身近な生活用品に活用できる体験メニュー化　など

資　料　編

◎後期計画策定の経過
◎後期計画検討に向けたヒアリング協力団体
◎後期計画策定委員（小原地域会議委員）
◎【参考資料】おばらみらいプラン前期計画[2014～2018 年度]の主な取組内容のまとめ
◎地域情報カルテ
◎自治力見える化カルテ

■後期計画策定の経過

第 6 期地域会議の作業	
◇前期計画 15事業の方向性協議、関係団体へのヒアリング ・第 1 分科会　前期計画 7 事業の協議（8 回） ・第 2 分科会　前期計画 8 事業の協議（7 回）	平成 29 年 6 月～平成 30 年 2 月
◇後期計画策定のための協議結果の報告 ・各分科会協議結果のまとめ	平成 30 年 3 月
第 7 期地域会議の作業	
◇小原地区の現状整理 ・前期計画の進捗状況や各種取組状況の共有	平成 30 年 6 月
◇前期計画の総括作業の実施 ・前期計画事業の実績・効果の検証 ・目指す将来像の検証	平成 30 年 6 月～8 月
◇後期計画の取組内容の検討 ・第 1 分科会協議（8 回） ・第 2 分科会協議（8 回）	平成 30 年 6 月～平成 31 年 12 月
◇後期計画素案の策定、パブリックコメントの実施 ・各種関係団体への説明 ・全戸を対象としたパブリックコメントの実施／意見数 5 件	平成 30 年 12 月～平成 31 年 1 月
◇後期計画策定・発表 まちづくり 2019 発表会	平成 31 年 3 月

■後期計画検討に向けたヒアリング協力団体

将来像	取組分野	ヒアリング先の協力団体
将来像1	定住促進	ようこそおばら委員会、小原地区区長会、定住促進委員会、大平自治区若者定住促進委員会、小原歌舞伎保存会、小原ガイドボランティア、各小中学校、小原宴火
	まちづくりリーダー育成	419製作所、大平わくわくワークショップ、小原軽トラック市、小原交流館
	子育て・子育ち	小原交流館、大草子育て支援センター、大平わくわくワークショップ、施設を利用している保護者、小原地区区長会、定住促進委員会、各小中学校
将来像2	地域支え合い	小原地区区長会
	耕作放棄地の解消	おばら米ブランド化研究会
	暮らしの豊かさの認知度アップ	小原交流館
	高齢者の健康づくり	はっぴー名水会、にこにこフレンド、さくらサロン中、陽だまり会、城山元気会、小原西ふれあいサロン、小原地区コミュニティ会議スポーツ部会、小原地区ヘルスサポートリーダー、健康づくりの会、ご縁の会、小原清流会
	水環境の保全	里山　和、永友会
将来像3	観光交流の促進	小原観光協会、小原四季桜愛護会、大洞四季桜を守る会
	産業振興	小原商工会、小原観光協会
	和紙文化の振興	和紙のふるさと運営協議会、小原和紙工芸会

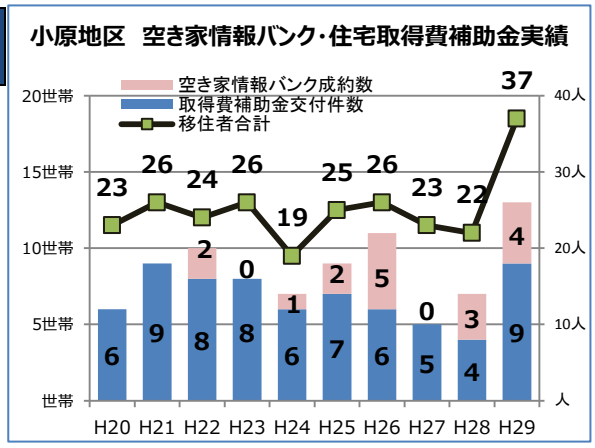
■後期計画策定委員（小原地域会議委員）

第 6 期地域会議委員（平成28･29年度）　◎会長　〇副会長　◇分科会長　【敬称略】			
〇加藤　章	世戸口　紘	山内　栄	田澤　美代子
◎加藤　博道	枡岡　千広	間瀬　正行	◇鈴木　須麻子
小川　幹夫	山内　裕三	成瀬　勝	鈴木　孝典
土井　克也	杉田　進洋	◇山田　敏郎	
第 7 期地域会議委員（平成30年度）　◎会長　〇副会長　◇分科会長　【敬称略】			
加知　巨次	〇二村　正明	久名木　浩志	◇鈴木　孝典
谷山　義寛	片山　茂夫	◎間瀬　正行	金子　潤
◇小川　幹夫	大地　一成	酒井　良二	
伊藤　保孝	中垣　義司	山田　良作	

【参考資料】

おばらみらいプラン前期計画[2014~2018 年度]の主な取組内容のまとめ

将来像 1　子どもが伸び伸びと育つ安心で住み良い里山



◎地域の担い手創出・U&I ターン推進事業関連

☞地域や各団体の取組により、移住者希望者の受け入れ体制づくりが進められ、移住者増加に繋がった。

・空き家情報バンクの運用／延べ 17 世帯、49 人移住(H22~29)
　※H30 年度(1 月末現在):空き家の新規登録 5 件、成約数 8 件
　／空き家片付け補助(上限 20 万円)創設(H30～)

・住宅取得費補助金／68 世帯 202 人移住(H20~29 年度)

・市有財産(旧教員住宅)の売却(H29～)
　／遊屋町　2 戸募集中、小原町　1 戸売却済み

・地域情報誌『おばらのじかん』発行【地域予算提案事業(H26~)】
　／年3回発行(15 号発行)、登録出身者への送付　88 人

・わくわく活動団体による U ターンイベント実施
　／軽トラあんどんパレード(H26~)、手筒花火の実演(H28~)

・地域主催による物件見学会(交流会)の開催
　／大平自治区(H28・H30)、小原中自治区(H29)

空き家片付け大作戦の様子（大平自治区）

◎おばら郷土愛育み事業関連

☞子どもや若者を対象とした各種団体の活動が増え、郷土愛の醸成に繋がった。

・各種団体による関連事業(わくわく事業ほか)
　／子ども歌舞伎公演(歌舞伎保存会)、ブルーベリー収穫体験(チャレンジ大平)、ソフトテニス教室(ソフトテニス連盟)、軽トラあんどんパレード(あかりの華プロジェクト)、手筒花火(小原宴火)、ガサガサイベント(里山 和)　など

ブルーベリー収穫体験の様子
(わくわく事業)

訪問サポーター交流会の様子

将来像 2　人と自然が共生した暮らしやすく豊かな里山

◎集落もやい活動推進事業関連

☞既存の仕組みや制度を活用し、住民同士の支え合い活動や集落ぐるみによる地域活動が進められた。

・訪問サポーターによる高齢者世帯への訪問活動【地域予算提案事業(H22~)】
　／登録サポーター35 人、年間延べ 550～770 回訪問

・都市部ボランティアの活用
／集落活動応援隊の受入(岩下町:H26～、三ツ久保町:H29～)
／大和ハウス工業との河畔整備(平畑町「山里　和」)

・耕作放棄地整備支援事業【地域予算提案事業(H24~)】
／延べ 41 町　約 134,000 ㎡解消(重複か所あり)

・生活道路環境整備推進事業の活用【地域予算提案事業(H24~)】
／通行支障木の伐採支援　延べ 62 路線、約 16km 解消
／道路堆積土浚渫(側溝浚渫作業等)支援　延べ 14 路線、約 6km 解消

・ゴミの不法投棄防止事業(資材支給)の活用【地域予算提案事業(H24~H28)】
／パトロール隊結成11自治区　17 隊、パトロールの継続実施

地域ぐるみによる耕作放棄地
の草刈作業の様子

◎おばら米ブランド化チャレンジ事業関連

☞小原産のお米が高い評価を得たことで、農家のモチベーションアップに繋がった。

・食味コンテスト(食べ比べ)の実施(H27～)
　／他のブランド米を抑えて好評価を得る結果(3 品種中　1 位)
・品評会への参加(H28～)／熱田神宮豊年講･県農協中央会共催品評会入賞(H29)
・品質の統一化に向けた基準や栽培暦の策定(H29)
・生産･検査･販売体制の構築、「おばら四季桜米」としての販売開始(H30)

おばら四季桜米の販売の様子

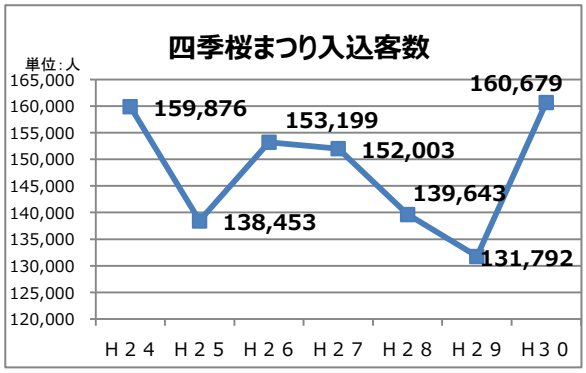
◎みんなで運動習慣普及事業関連

☞各種活動団体の取り組みにより、健康づくりや運動習慣を考える機会が増え、健康意識が地域に広まりつつある。

・健康づくり関連する団体数(H26~H30)／わくわく事業 4 団体、交流館自主グループ 4 団体
・地域によるふれあいサロンの運営／サロン数　14か所
・ヘルスサポートリーダーやスポーツ委員による各種健康事業の実施　など

城山元気会（わくわく事業）の
健康づくり活動の様子

将来像 3　観光交流を地域の元気につなげる活力ある里山



◎戦略的観光ＰＲ･イメージアップ事業関連

☞県や企業とのコラボ企画により四季桜や小原地区を全国に発信し知名度アップを図ることができた。

・県観光 PR 事業により「松平健と四季桜のコラボ」PR の実施(H27)
・四季桜･歌舞伎･和紙の魅力をまとめた動画制作･PR(H28)
　／旅行事業者、番組制作事業者への PR
・fLOWERS　by　Naked と連携したプロジェクションマッピングの実施(H28)
・観光施設の多言語看板等の設置、トイレの洋式化、Wi－Fi環境の拡充(H30)
・小原町加茂原神社との連携企画、Ha:mo　RIDE 活用(H30)
・小原マルシェの開催【地域予算提案事業(H29~30)】
　／プレマルシェ来場者約 1,800 人　出店者数 30 店(H29)
　／第 1 回(6 月)　来場者数約 2,000 人　出店者数 24 店　売上額約80万円(H30)
　　第 2 回(12 月)　来場者数約 1,300 人　出店者数 25 店　売上額約68万円(H30)

Ha:mo RIDE

◎四季桜愛護活動強化事業

☞四季桜愛護会の発足以降、会員自らが管理手法を学びながら四季桜のメンテナンスを行っている。また、四季桜まつり出店者も愛護活動に参加し進められた。

・四季桜愛護会による愛護活動実施／毎年 3～4 回
・豊田青年会議所による愛護活動への協力／約10名参加(H26)
・四季桜･紅葉育成体制構築事業【地域予算提案事業】／川見園地内の樹木診断の実施(H30～)

H29 年度プレおばらマルシェの様子

◎和紙工芸プロモーション事業

☞豊田国際紙フォーラム開催に向け、国際的にも小原和紙の認知度が高まりつつある。

・小原和紙ブランド化事業【地域予算提案事業(H23~28)】
　／耕作放棄地を活用した楮の生産、加工の研究
・2020 年豊田国際紙フォーラム開催誘致(H28～)
　／国際大会(ブラジル･ブルガリア)での小原和紙や豊田大会開催PRの実施
　／2020 年豊田国際紙フォーラム実行委員会発足(H30)

2020 年豊田国際紙フォーラム実行委員会の様子

小 原 地 域

地域情報カルテ（1／4）

概要

基礎データ（平成30年4月1日現在）

【位置図】

【地域特性】

小原地区は、豊田市の北部にあり、地区北部は岐阜県（土岐市・瑞浪市・恵那市）と隣接、東南部には矢作川が流れている。

地区中央部は標高約300mであることに対し、北部では500m以上、南端では約100mと高低差のある地形である。市街地まで車で30分～１時間程度の距離であり、自動車関連企業に勤める人も多く住んでいる。自然豊かな里山の暮らしと周辺都市部へのアクセスの便利さをあわせ持つのが小原の特徴である。しかし、近年は年をおうごとに人口が減少しており、高齢化率は35%を超えている。

また、町内会単位の結びつきの強い地域であることも特徴であ

面積		74.68 km²	(8.1%)	[市 918.32 km2]	
人口密度		49 人/km²	(10.7%)	[市 462 人/km²]	
人口		3,677 人	(0.9%)	[市 424,500 人]	
	男性	1,810 人	(0.8%)	[市 221,768 人]	
	女性	1,867 人	(0.9%)	[市 202,732 人]	
うち外国人人口		55 人	(0.3%)	[市 16,327 人]	
世帯数		1,521 世帯	(0.9%)	[市 178,410 世帯]	
平均年齢		52.75 歳	(10.0歳)	[市 42.73 歳]	

■都市基盤

【主要道路】

地区の中央部を縦貫する国道419号、主要地方道３路線と一般県道５路線がある。

【公共交通】

とよたおいでんバス（小原・豊田線）、おばら桜バス

【公共施設】

高校(0)、中学校(1)、小学校(3)、こども園等(3)、交番・駐在所(2)、消防署(0)

小原交流館、小原歌舞伎伝承館、緑の公園・小原トレーニングセンター(1)、北部生活改善センター、和紙のふるさと、川見四季桜の里、小原福祉センターふくしの里、寿楽荘

【医療機関】

病院(0)：

医科(2)：乙ケ林診療所、小原診療所

歯科(1)：可児歯科医院

■地域資源

【観光資源】

小原四季桜、小原和紙、小原歌舞伎

【特産品】

米（ミネアサヒ）、たまご、天然にがり豆腐、自然薯、きのこ、山ごぼう

【イベント】

小原四季桜まつり（11月）、和紙良いフェスタ（8月）、カンゾカシキ（1月）、小原歌舞伎五月公演（5月）、小原夏まつり（8月）

■人口

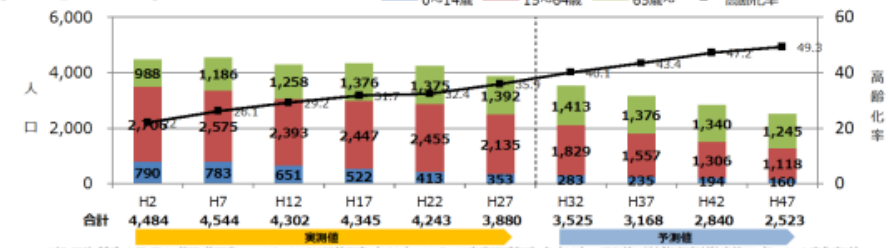
【年齢４区分別人口の推移】（単位：人、%）

	H25	H30	増減数	増減率
合 計	4,014	3,677	△ 337	△ 8.4
0～14歳	377	332	△ 45	△ 11.9
15～64歳	2,292	1,948	△ 344	△ 15.0
65歳～	1,345	1,397	52	3.9
75歳～（再掲）	846	762	△ 84	△ 9.9
高齢化率	33.51	37.99	4.49	13.39

【人口動態】（単位：人）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
合 計	△ 52	△ 82	△ 69	△ 48	△ 86
自然増減	△ 57	△ 78	△ 41	△ 50	△ 74
社会増減	5	△ 4	△ 28	2	△ 12

【人口推移・将来推計】（単位：人、%）



※旭、足助、稲武、小原、下山、藤岡、藤岡南 ･･ H2～H12は国勢調査（10/1）、H17～は庶務課所有データ（4/1）、予測値は地域振興部が独自算出（コーホート変化率法）

※上記以外の地域 ･････････････････ H2～H7は国勢調査（10/1）、H12～は庶務課所有データ（4/1）、予測値は地域振興部が独自算出（コーホート変化率法）

分野別

産業

■事業所（出典：平成26年経済センサス）

事業所総数	204 件	(1.4 %)	[市 14,352 件]	
農業，林業	5 件	(6.8 %)	[市 74 件]	
漁業	0 件	(0.0 %)	[市 2 件]	
鉱業，採石業，砂利採取業	1 件	(8.3 %)	[市 12 件]	
建設業	26 件	(1.8 %)	[市 1,434 件]	
製造業	43 件	(2.7 %)	[市 1,564 件]	
電気・ガス・熱供給・水道業	0 件	(0.0 %)	[市 21 件]	
情報通信業	0 件	(0.0 %)	[市 101 件]	
運輸業，郵便業	3 件	(0.9 %)	[市 326 件]	
卸売業，小売業	32 件	(1.0 %)	[市 3,108 件]	
金融業，保険業	0 件	(0.0 %)	[市 166 件]	
不動産業，物品賃貸業	3 件	(0.4 %)	[市 827 件]	
学術研究，専門・技術サービス	10 件	(1.9 %)	[市 521 件]	
宿泊業，飲食サービス業	17 件	(0.8 %)	[市 2,093 件]	
生活関連サービス業，娯楽業	12 件	(0.9 %)	[市 1,299 件]	
教育，学習支援業	10 件	(1.4 %)	[市 690 件]	
医療，福祉	16 件	(1.7 %)	[市 919 件]	
複合サービス事業	5 件	(5.6 %)	[市 90 件]	
サービス業(他に分類されないもの)	16 件	(1.6 %)	[市 1,023 件]	
公務（他に分類されるものを除く）	5 件	(6.1 %)	[市 82 件]	
従業者数	1,799 人	(0.7 %)	[市 263,701 人]	

■商業（出典：平成26年商業統計調査）

商店数総数	30 件	(1.3 %)	[市 2,297 件]	
卸売業	2 件	(0.5 %)	[市 435 件]	
小売業	28 件	(1.5 %)	[市 1,862 件]	
従業者数	133 人	(0.6 %)	[市 21,758 人]	

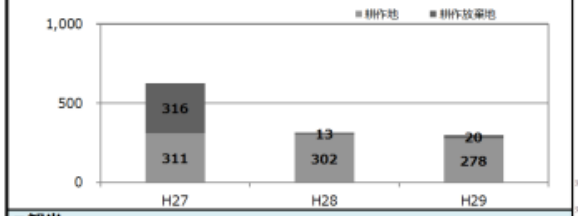
■工業（出典：平成26年工業統計調査）

工場数総数	16 件	(1.9 %)	[市 860 件]	
軽工業	10 件	(3.5 %)	[市 286 件]	
重化学工業	6 件	(1.0 %)	[市 574 件]	
従業者数	674 人	(0.6 %)	[市 105,996 人]	

■農業（内訳に秘匿を含む場合、総数と一致しない）（出典：平成27年農林業センサス）

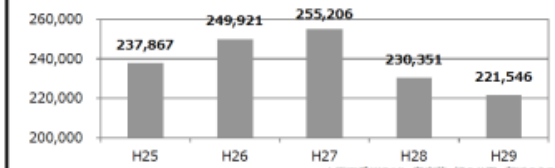
農家数総数（販売農家）	97 戸	(3.8 %)	[市 2,581 戸]	
専業	15 戸	(2.6 %)	[市 588 戸]	
兼業 第１種	0 戸	(0.0 %)	[市 134 戸]	
兼業 第２種	53 戸	(2.9 %)	[市 1,859 戸]	

【耕作面積】（農業委員会所有データ）（単位：ha）



■観光

【観光客数】（商業観光課所有データ等）（単位：人）



小原四季桜まつり、寿楽荘、緑の公園、和紙のふるさと

健康福祉

■健康（出典：地域健康カルテ（H29年度概要版））

国保医療費（H28, 1月あたり）		22,592 円	[市 23,336 円]	
特定健康診断受診率（H28）		27.6 %	[市 35.9 %]	
メタボ該当者率（H28）	男性	21.3 %	[市 27.7 %]	
	女性	10.5 %	[市 11.1 %]	
高血糖該当者率（H28）	男性	78.7 %	[市 74.3 %]	
	女性	82.5 %	[市 71.1 %]	
脂質異常該当者率（H28）	男性	67.0 %	[市 74.6 %]	
	女性	83.3 %	[市 81.5 %]	
高血圧該当者率（H28）	男性	61.7 %	[市 64.6 %]	
	女性	54.4 %	[市 56.1 %]	

■福祉（出典：地域健康カルテ（H29年度概要版）、平成27年国勢調査）

介護保険認定者（H29.9）	310 人	[市 13,045 人]	
	22.1 %	[市 14.0 %]	
高齢者単独世帯	184 世帯	[市 9,535 世帯]	
	14.9 %	[市 5.6 %]	
高齢者夫婦世帯	163 世帯	[市 13,380 世帯]	
	13.2 %	[市 7.9 %]	

生活

■安全安心（順位は豊田市２８地区中のもの）

身近な犯罪の認知件数（愛知県警察本部提供データ）	H25	9 件	(ワースト 26 位)	[市 2,051 件]
	H26	16 件	(ワースト 21 位)	[市 1,605 件]
	H27	14 件	(ワースト 22 位)	[市 1,331 件]
	H28	6 件	(ワースト 25 位)	[市 1,149 件]
	H29	3 件	(ワースト 27 位)	[市 1,166 件]
		① 侵入盗 ② 0 ③ 0		
交通事故発生件数（愛知県警察本部提供データ）	H25	8 件	(ワースト 27 位)	[市 2,202 件]
	H26	7 件	(ワースト 27 位)	[市 1,857 件]
	H27	6 件	(ワースト 27 位)	[市 2,000 件]
	H28	11 件	(ワースト 25 位)	[市 2,006 件]
	H29	6 件	(ワースト 27 位)	[市 1,866 件]

地震被害予測（防災対策課所有データ）	震度面積率	7	0.0 %	[市 0.0 %]
		6強	0.0 %	[市 * %]
		6弱	0.0 %	[市 23.2 %]
		5強	100.0 %	[市 76.8 %]
		5弱以下	0.0 %	[市 0.0 %]
	建物被害	全壊・焼失	6 棟	[市 677 棟]
		揺れ	0 棟	[市 502 棟]
		液状化	0 棟	[市 25 棟]
		急傾斜地	6 棟	[市 108 棟]
		火災	0 棟	[市 41 棟]
		半壊	38 棟	[市 4,813 棟]
		揺れ	24 棟	[市 4,405 棟]
		液状化	0 棟	[市 155 棟]
		急傾斜地	14 棟	[市 253 棟]
	人的被害	死者数	0 人	[市 27 人]
		重傷者数	0 人	[市 66 人]
		軽症者数	4 人	[市 492 人]
	避難者数（1週間後）		423 人	[市 47,345 人]

※1 過去最大モデル（冬夕方発災）

※2 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある

※3 「＊」は0.1%未満

■住居（出典：平成27年国勢調査）

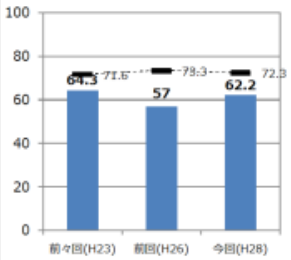
一般世帯数	1,233 世帯	(100.0%)	[市 169,460 世帯]	(100.0%)
持ち家	1,133 世帯	(91.9%)	[市 100,893 世帯]	(59.5%)
公営等の借家	7 世帯	(0.6%)	[市 7,229 世帯]	(4.3%)
民営の借家	45 世帯	(3.6%)	[市 42,433 世帯]	(25.0%)
給与住宅	4 世帯	(0.3%)	[市 3,476 世帯]	(2.1%)
間借り	14 世帯	(1.1%)	[市 881 世帯]	(0.5%)
住宅以外	30 世帯	(2.4%)	[市 14,548 世帯]	(8.6%)

住民意識

市民意識調査

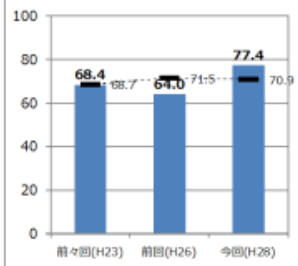
小原　豊田市　（単位：%）

【豊田市の住みよさ満足度】



※選択肢「住みよい」「どちらかといえば住みよい」の合計

【今住んでいるところへの定住意識】



※選択肢「今のところに住みたい」

【市の施策満足度】（地域の満足度が高い順）　（単位：pt）

項　目	小原	豊田市	差
郷土の歴史・文化の継承	4.60	4.51	0.09
水辺環境等の水資源の確保	4.52	4.81	△ 0.29
食生活の安心	4.48	4.81	△ 0.33
芸術・文化活動の促進	4.45	4.53	△ 0.08
地産地消の推進	4.45	4.74	△ 0.29
良好な景観の形成	4.40	4.08	0.32
生き活い型農業の促進	4.35	4.40	△ 0.05
環境率先行動の促進	4.31	4.67	△ 0.36
学校教育の充実	4.30	4.61	△ 0.31
企業活動の活性化	4.28	5.32	△ 1.04
公園・緑地の整備	4.27	4.47	△ 0.20
子育て支援の充実	4.21	4.76	△ 0.55
心と体の健康づくり	4.18	4.55	△ 0.37
循環型社会の実現	4.16	4.46	△ 0.30
医療提供体制の充実	4.11	4.93	△ 0.82
消防・救急体制の充実	4.09	4.93	△ 0.84
道路ネットワークの形成	4.09	4.46	△ 0.37
市民による地域づくり	4.05	4.37	△ 0.32
地球温暖化への対策	4.04	4.25	△ 0.21
共働の推進	3.99	4.26	△ 0.27
青少年の育成	3.97	4.37	△ 0.40
スポーツ環境の充実	3.97	4.69	△ 0.72
高齢者の暮らしの安全	3.93	4.21	△ 0.28
防犯対策の充実	3.90	4.04	△ 0.14
高齢者が活躍できる環境整備	3.84	4.20	△ 0.36
公共施設の適切な維持・管理	3.83	4.52	△ 0.69
交通安全対策の充実	3.82	3.88	△ 0.06
観光まちづくりの推進	3.77	3.15	0.62
生活排水の適正処理	3.77	4.57	△ 0.80
防災対策の充実	3.74	4.41	△ 0.67
住宅・宅地の供給	3.74	4.15	△ 0.41
快適な住環境の整備	3.73	4.20	△ 0.47
障がい者の暮らしの安全	3.71	4.05	△ 0.34
女性が活躍できる環境整備	3.63	4.02	△ 0.39
森林の保全	3.59	4.33	△ 0.74
情報提供体制の充実	3.51	3.67	△ 0.16
国際化に対応したまちづくり	3.51	4.12	△ 0.61
商業地の魅力づくりと活性化	3.39	3.71	△ 0.32
歩行・自転車環境の整備	3.34	3.41	△ 0.07
公共交通サービスの充実	3.31	3.29	0.02

※満足度を１～７の７段階で評価した平均値

まちづくり

自治区データ　（平成30年4月1日現在）

【自治区一覧】

自治区名	世帯数	自治区名	世帯数	自治区名	世帯数
大平	175	栄	69		
道慈	88	大草	145		
小原西	109	城東	106		
上仁木	102	矢作	69		
旭	79				
高原	69				
小原中	86				
小原東	47				

※世帯数は自治区から報告されたものであり、隣接した中学校区の一部を含む場合あり

【自治区加入率】

加入率	75.2　%	加入世帯数	1,144 世帯
	[市　80.9　%]	住基世帯数	1,521 世帯

地域自治システム関連事業

【わくわく事業】　（単位：件）

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
件数	12	20	14	14	11	12	9	8	10	12

※H30は、平成30年7月31日現在

【地域予算提案事業】

事業名	種別	実施年度
高齢者を地域で支える体制づくり	高齢福祉	H22 ～ H31
耕作放棄地整備支援事業	農業振興	H24 ～ H31
定住促進サポート事業	定住対策	H24 ～ H33
生活道路環境整備推進事業	交通安全	H24 ～ H33
おばら米ブランド化チャレンジ事業	農業振興	H28 ～ H30
杉田久女顕彰事業	文化活動	H29
矢作川水源保全啓発事業	環境対策	H29
おばらマルシェ創出事業	観光交流	H29 ～ H30
四季桜・紅葉の育成体制の構築	観光交流	H30 ～ H34

【地域まちづくりビジョン】
おばらみらいプラン（10年間、2014～2023）
前期計画（5年間、2014～2018）
後期計画（5年間、2019～2023）［予定］

施策実施状況

【支所予算執行状況】　（単位：千円）

	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	備　考
歳出合計	324,530	227,596	293,696	
２款（総務費）小計	235,594	189,442	261,562	
人件費	7,016	8,705	7,470	
地域会議運営費	736	684	1,118	
支所管理費	14,887	17,870	33,473	
地域振興事業費	16,126	13,315	14,733	地域振興事務交付金、自治区補助金など
わくわく事業補助金	3,044	4,155	4,500	
地域予算提案事業費	10,723	11,059	18,586	
地域交通推進費	18,176	18,235	19,568	
観光交流推進費	178	103	405	
地域活動推進費	24,267	21,237	19,418	観光協会補助金、防災訓練費など
一般観光施設費	15,880	14,551	21,665	小原ふれあい公園ほか９施設
小原和紙のふるさと費	42,724	47,259	59,674	
北部生活改善センター費	2,222	2,129	5,157	指定管理
四季の回廊費	73,379	10,370	31,400	
四季桜まつり渋滞対策費	1,652	1,858	1,890	
小原歌舞伎伝承活動負担金	620	550	520	
里山林整備事業費	3,964	17,362	9,000	
地域交流館施設管理運営費			443	
地域交流館施設整備費			12,542	
１０款（教育費）小計	88,936	38,154	32,134	
地域資料館費	2,890			小原郷土館はH28.12で閉館
地域文化財管理費	1,514	1,594	4,116	
地域交流館施設管理運営費	466	397		
地域交流館施設整備費	29,044	13,881		
小原地域体育施設費	55,022	22,282	28,018	指定管理

【特徴的な事業の状況等】

■四季桜まつり入込客数実績

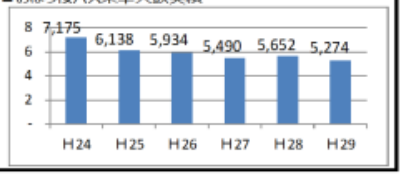
	H２４	H２５	H２６	H２７	H２８	H２９
ふれあい公園	80,361	60,577	67,546	64,924	60,840	58,822
和紙のふるさと	25,809	21,096	21,960	23,771	21,337	17,360
北部生活改善センター	14,100	18,525	20,915	20,490	20,865	21,310
川見四季桜の里	30,606	26,769	25,838	29,610	24,643	27,253
その他（民間駐車場等）	9,000	11,486	16,940	13,208	11,958	7,048
合計	159,876	138,453	153,199	152,003	139,643	131,793

■空き家情報バンク制度の実績

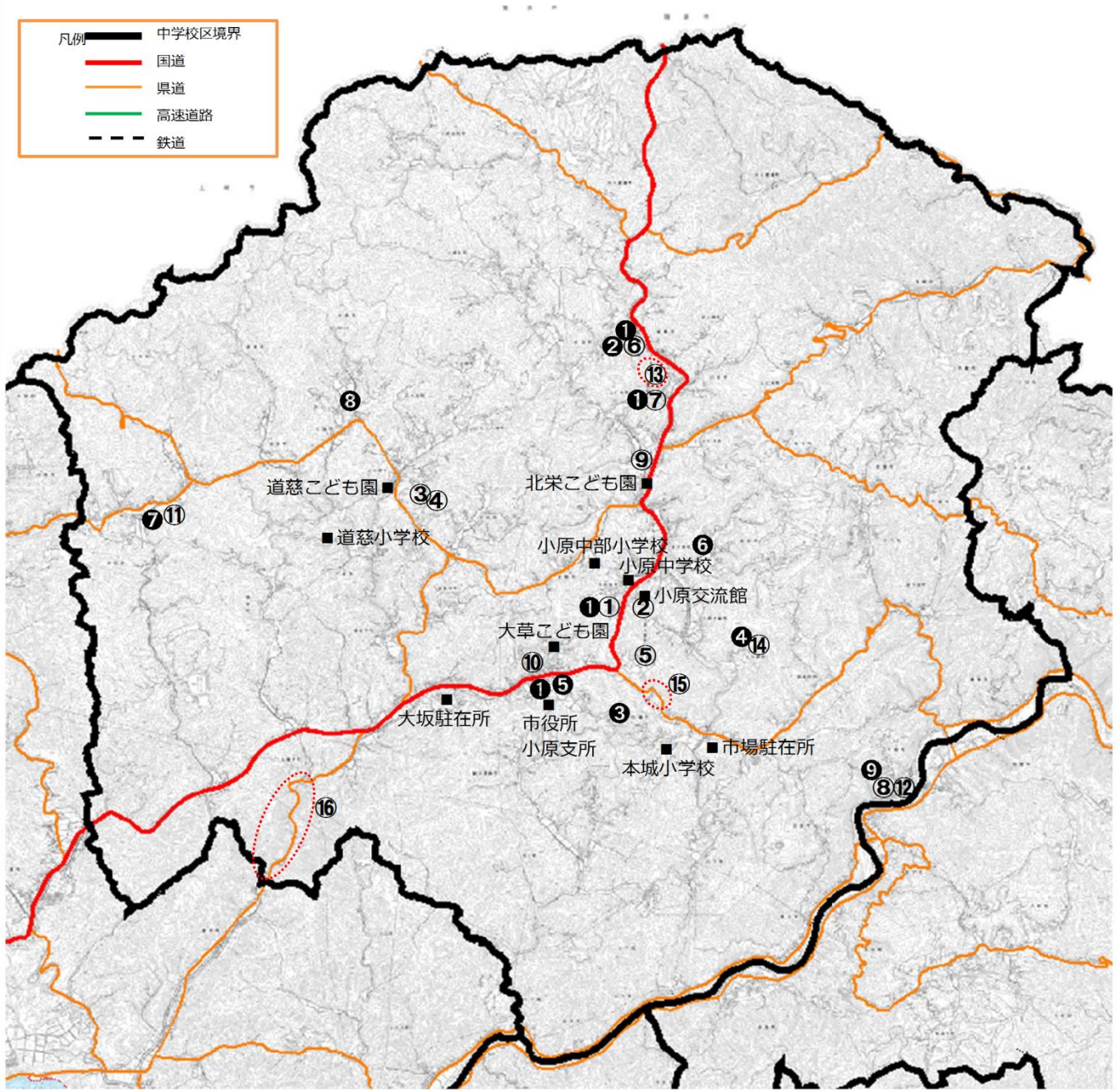
	H24	H25	H26	H27	H28	H29
成約件数	1	2	5	-	3	4
移住者数	6	7	11	-	9	10
登録物件数	1	2	3	3	6	5

成約件数延べ　１７件　移住者数延べ　４９人
登録物件延べ件数　２４件

■おばら桜バス乗車人数実績



公共施設及び公共工事等位置図



【公共施設等】
①和紙のふるさと
②小原歌舞伎伝承館
③乙ケ林診療所
④小原福祉センターふくしの里
⑤緑の公園・小原トレーニングセンター
⑥北部生活改善センター
⑦川見四季桜の里
⑧寿楽荘
⑨小原郵便局
⑩大草郵便局
⑪道慈簡易郵便局
⑫小原平畑簡易郵便局

【公共工事等】
⑬里山林整備事業
⑭鳥屋平整備事業
⑮県道平畑土岐線　拡幅工事
⑯県道沢田御作線　拡幅工事

【その他特徴的地点】
❶四季桜まつり会場
四季桜と紅葉の共演が楽しめる観光名所。11月のまつり期間中は4会場で毎年約15万人の観光客が訪れる。
❷前洞の四季桜（愛知県指定天然記念物）
愛知県の天然記念物に指定された樹齢100年を超える名木。
❸市場城址
標高380mの山頂にある室町時代の山城跡。山頂の遺構は天正11年（1583）に改修された城郭。
❹鳥屋平
小原和紙工芸の祖「藤井達吉」が紙漉場などを建て、芸術を目指す若者を育成した小原和紙工芸発祥の地。
❺どろぶち観音
大変泥を好む観音様。泥をぶつけると願いがかなうと云われ、泥をぶつけてはお参りするようになった。
❻杉田久女句碑
大正末期から昭和初期にかけて活躍した女流俳人「杉田久女」の句碑。夫の屋敷跡に代表句が刻まれている。
❼ブルーベリー園
わくわく事業団体「大平わくわくワークショップ」によりブルーベリー園の整備などが行われている。
❽天王さん公園
わくわく事業団体「大洞町四季桜を守る会」により四季桜遊歩道が整備、四季桜の管理育成が行われている。
❾ビオトープ
わくわく事業団体「里山　和」によりビオトープの整備や市道沿いの緑化、樹木手入れなどが行われている。

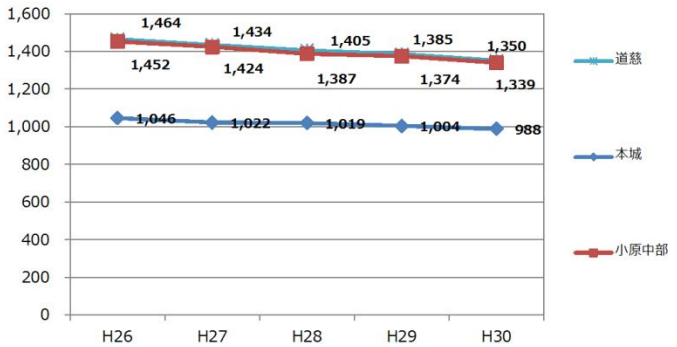
用途地域図（都市計画区域）

- 第1種低層住居専用地域
- 第2種低層住居専用地域
- 第1種中高層住居専用地域
- 第2種中高層住居専用地域
- 第1種住居地域
- 第2種住居地域
- 準住居専用地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域
- 工業専用地域

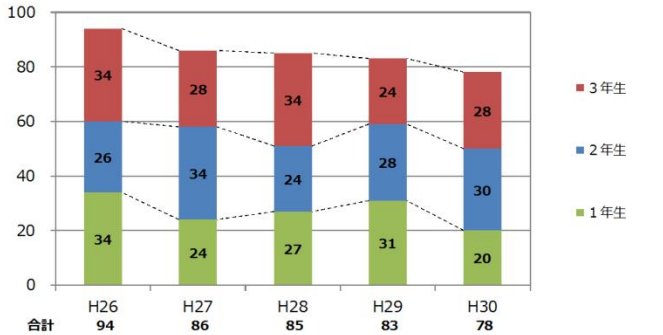
※平成30年4月1日現在

小学校区別データ

【小学校区別人口】（出典：とうけいとよた（各年4.1現在））　（単位：人）



<参考>中学校生徒数　（出典：学校基本調査等（H30.5.1））　（単位：人）



【小学校区別特徴】（出典：学校基本調査等（H30.5.1））

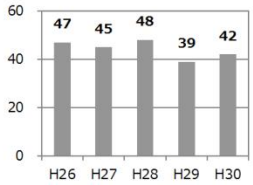
＊：町の一部の場合

①道慈小学校区

〈町〉大平町、荷掛町、寺平町、乙ケ林町、三ツ久保町、大洞町、千洗町、沢田町、西萩平町、喜佐平町、北篠平町

〈特徴〉藤岡地域と隣接した小原地区西部を区域としている。バブル時代に民間で団地開発がされたこともあり、人口の減少が緩やかな区域である。

〈児童数〉（単位：人）

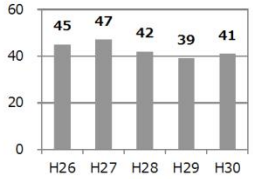


②本城小学校区

〈町〉小原町、大坂町、鍛治屋敷町、李町、市場町、西細田町、川下町、樽俣町、平畑町、日面町、簗平町、百月町

〈特徴〉昭和52年度の簗平小学校の廃校に伴う統合により学校区が広がったため、スクールバスで通学する児童がいる。国道４１９号周辺から矢作川沿線の地域を区域としており、支所、緑の公園などの公共施設が存在する。

〈児童数〉（単位：人）

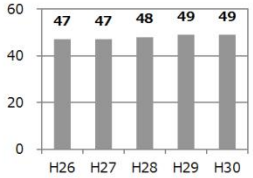


③小原中部小学校区

〈町〉上仁木町、川見町、東郷町、大ケ蔵連町、雑敷町、柏ケ洞町、前洞町、小原田代町、小原北町、北大野町、小原大倉町、永太郎町、松名町、宮代町、刈萱町、平岩町、西丹波町、岩下町、下仁木町、遊屋町

〈特徴〉昭和52年度の福原小学校、清原小学校の廃校にともなう統合により、１つの中部小学校区となった。学校区が広がったため、スクールバスで通学する児童がいる。小原北東部を区域としている。永太郎町を中心に中学校や交流館、和紙のふるさとなどの公共施設が存在する。

〈児童数〉（単位：人）



小 原 地 域

自治力見える化カルテ（1／2）

地域概要（地域の構造）

基礎データ（平成30年4月1日現在）

【位置図】

【地域特性】

小原地区は、豊田市の北部にあり、地区北部は岐阜県（土岐市・瑞浪市・恵那市）と隣接、東南部には矢作川が流れている。

地区中央部は標高約300mであることに対し、北部では500m以上、南端では約100mと高低差のある地形である。市街地まで車で30分～1時間程度の距離であり、自動車関連企業に勤める人も多く住んでいる。自然豊かな里山の暮らしと周辺都市部へのアクセスの便利さをあわせ持つのが小原の特徴である。しかし、近年は年をおうごとに人口が減少しており、高齢化率は35%を超えている。

また、町内会単位の結びつきの強い地域であることも特徴であ

面積		74.68 km²	(8.1%)	[市	918.32 km2]
人口密度		49 人/km²	(10.7%)	[市	462 人/km²]
人口		3,677 人	(0.9%)	[市	424,500 人]
	男性	1,810 人	(0.8%)	[市	221,768 人]
	女性	1,867 人	(0.9%)	[市	202,732 人]
うち外国人人口		55 人	(0.3%)	[市	16,327 人]
世帯数		1,521 世帯	(0.9%)	[市	178,410 世帯]
平均年齢		52.75 歳	(10.0歳)	[市	42.73 歳]

■自治区データ

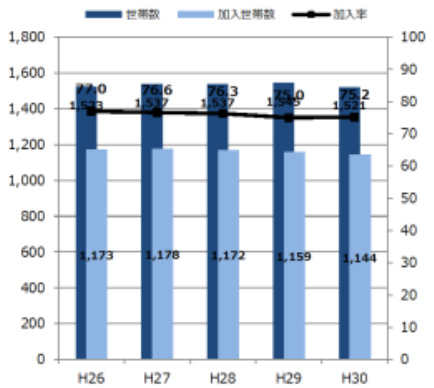
【自治区一覧】

自治区名	世帯数	自治区名	世帯数	自治区名	世帯数
大平	175	栄	69		
道慈	88	大草	145		
小原西	109	城東	106		
上仁木	102	矢作	69		
旭	79				
高原	69				
小原中	86				
小原東	47				

【自治区加入率】

加入率	75.2 %	加入世帯数	1,144 世帯
[市	80.9 %]	住基世帯数	1,521 世帯

【自治区加入率推移】（単位：世帯、%）



■人口

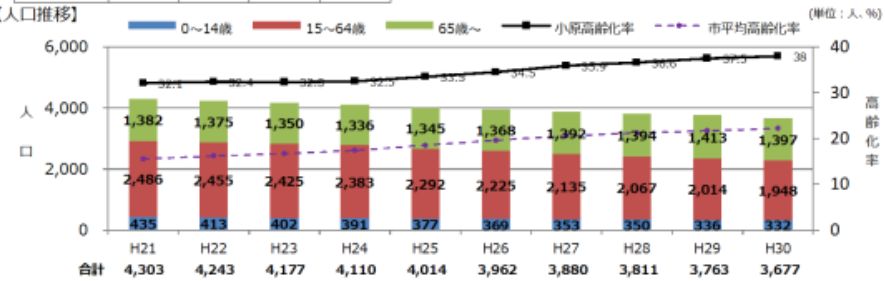
【年齢4区分別人口の推移】（単位：人、%）

	H25	H30	増減数	増減率
合 計	4,014	3,677	△ 337	△ 8.4
0～14歳	377	332	△ 45	△ 11.9
15～64歳	2,292	1,948	△ 344	△ 15.0
65歳～	1,345	1,397	52	3.9
75歳～（再掲）	846	762	△ 84	△ 9.9
高齢化率	33.51	37.99	4.49	13.39

【人口動態】（単位：人）

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
合 計	△ 52	△ 82	△ 69	△ 48	△ 86
自然増減	△ 57	△ 78	△ 41	△ 50	△ 74
社会増減	5	△ 4	△ 28	2	△ 12

【人口推移】（単位：人、%）



地域自治

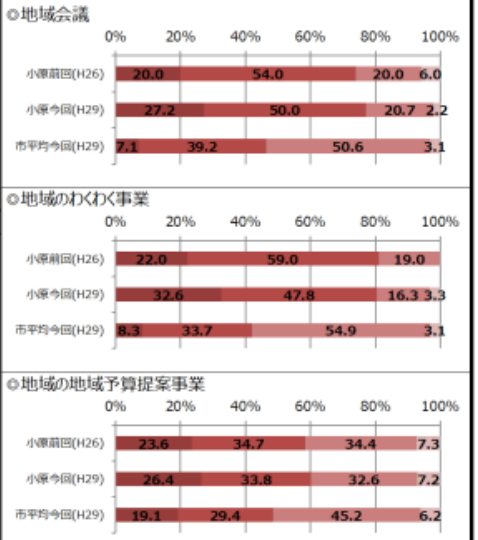
出典：H29地域自治システム評価アンケート

【地域課題】（地域の課題認識が高い順）（単位：%）

課題・問題点の項目	小原	豊田市	差
豊かな自然環境の保全	66.4	40.3	26.1
鳥獣害対策の強化	61.9	28.9	33.0
空き家や耕作放棄地の対策の強化	59.8	32.8	27.0
若年層の定住促進策の拡充	59.8	33.6	26.2
公共交通機関の充実	56.5	44.3	12.2
郷土の歴史・伝統・文化の保存と再生	55.4	32.0	23.4
観光によるまちづくりの推進	54.4	18.9	35.5
生活道路・交通をスムーズにすること	52.2	45.4	6.8
農業・農地を保全すること	48.9	26.2	22.7
住民同士の交流の場や機会の拡充	48.9	34.2	14.7
医療の充実	47.9	47.2	0.7
交通安全対策の推進	47.8	53.9	△ 6.1
買い物の不便の解消	47.8	43.8	4.0
高齢者の生きがいづくりの場などの充実	45.6	38.0	7.6
福祉対策の充実	42.4	31.8	10.6
防災対策の充実	41.3	36.8	4.5
近所での働き口の創出	39.2	25.8	13.4
防犯対策の強化	39.1	40.5	△ 1.4
子育ての支援の充実	38.0	38.1	△ 0.1
市街地の活性化と魅力づくりの推進	35.8	31.3	4.5
広場、公園などの施設の整備	33.7	39.5	△ 5.8

※「思う」「どちらかといえば思う」の合計

【地域自治システム認知度】 知っている / 聞いたことはある / 知らない / 回答なし



【コメント（地域概要）】

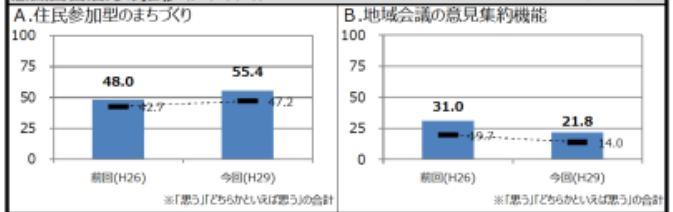
地域会議やわくわく事業の認知度が高く、住民参加のまちづくりが地区全体に浸透してきている。一方で人口は年々減少しており、35%を超える高齢化率も上昇の一途をたどっている。地域課題では自然環境の保全、獣害対策、定住促進といった中山間地域特有の課題が上位をしめている。

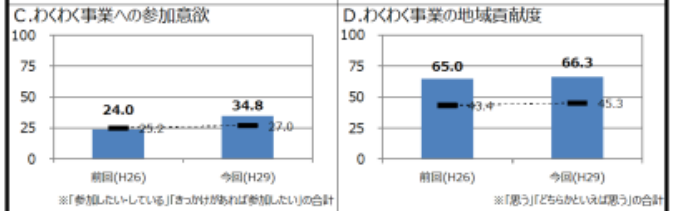
意識（アンケートから診る意識面の自治力）

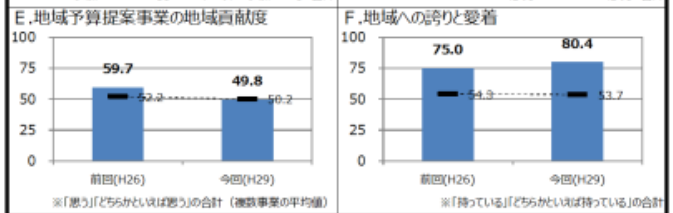
出典：地域自治システム評価アンケート

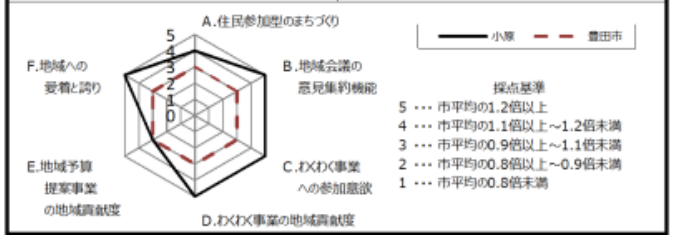
意識面自治力の推移（レーダーチャート）

小原 / 豊田市（単位：%）







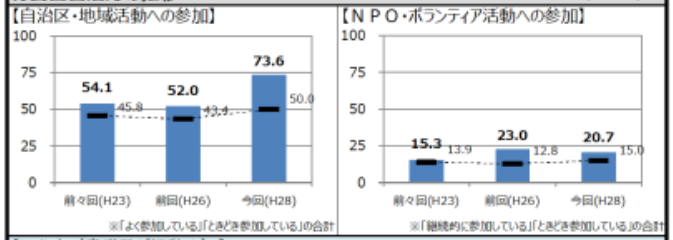


行動１（アンケートから診る行動面の自治力）

出典：市民意識調査

行動面自治力の推移

小原 / 豊田市（単位：%）



【コメント（意識及び行動１）】

意識面や行動面ともに全市の平均を上まわっており、比較的自治力が高い状況といえる。特に意識面では、地域への愛着やわくわく事業の貢献意識は高い数値となっている。また、自治区・地域活動への参加では、前回結果と比べ大幅に上昇しており、実際に行動に移す人も増えている状況がうかがえる。一方で、わくわく事業の参加意欲やボランティア活動への参加は他項目よりも低い数値となっており、地域活動以外の活動に参加していない状況もうかがえる。

自治力見える化カルテ（２／２）

行動２（分野別取組から診る行動面の自治力）

健康

交流館自主グループ	5 団体	わくわく事業関連団体	4 団体
スポーツ推進委員	5 名	ヘルスサポートリーダー	11 名
高齢者クラブ	8 団体	その他団体	13 団体

活動例：【ヘルスサポートリーダー】地域イベントでの健康啓発事業を行っている
【健康づくりの会】小原地域内でのウォーキング活動を行っている
【城山元気会】高齢者のための脳トレーニング、筋力トレーニングを行っている

ｺﾒﾝﾄ：地域住民が健康づくりを考えるきっかけづくりに繋がっている

福祉

交流館自主グループ	団体	わくわく事業関連団体	1 団体
民生委員児童委員	12 名	お元気ですかﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	名
ささえあいネット	72 団体	その他団体	団体

活動例：【訪問サポーター】サポーターが定期的に高齢者宅に訪問し、話し相手となっている
【織り姫クラブ】機織りを通じ、高齢者交流の場を創出している

ｺﾒﾝﾄ：見守り活動を通じて高齢者を地域で支える体制づくりが展開されている

観光・産業

交流館自主グループ	団体	わくわく事業関連団体	7 団体
その他団体	6 団体	－	
－		－	

活動例：【大洞町四季桜を守る会】大洞町の四季桜の管理を行っている 【オバラくあかりの華＞プロジェクト】軽トラあんどんパレードを開催している 【小原軽トラ市】小原産の野菜を販売している 【おばら米ブランド化研究会】小原産の「ミネアサヒ」のブランド化の研究を行っている 【おばらマルシェ実行委員会】マルシェを開催している

ｺﾒﾝﾄ：地域資源を活かした事業実施であり、近年観光客も訪れるようになっている

伝統・文化

交流館自主グループ	14 団体	わくわく事業関連団体	6 団体
その他団体	1 団体	－	
－		－	

活動例：【小原ガイドボランティア】小原俳句会を実施している 【小原歌舞伎保存会】年２回の歌舞伎の定期公演や、歌舞伎体験会を開催している 【豊田小原和紙工芸会】展覧会、講習会の開催や、後継者育成を行っている 【2020年豊田国際紙フォーラム実行委員会】豊田小原和紙の世界に向けた情報発信や産業化の促進を行っている

ｺﾒﾝﾄ：大人のみならず、子どもも地域の伝統・文化に触れる機会となっており、郷土への愛着や誇りに繋がっている。

環境・景観

交流館自主グループ	団体	わくわく事業関連団体	4 団体
その他団体	団体	森づくり会議	9 団体
不法投棄パトロール隊	17 団体	－	

活動例：【チャレンジ大平】環境整備やブルーベリー園の維持管理・収穫体験を行っている
【里山　和】矢作川周辺の環境整備を行っている

ｺﾒﾝﾄ：定期的な活動により、不法投棄防止、景観整備、水害対策に繋がっている

安全・安心

交流館自主グループ	団体	わくわく事業関連団体	1 団体
自主防犯団体	8 団体	自主防災会	12 団体
消防団	109 名	その他団体	1 団体

活動例：【小原地区防災ボランティア】作業ボランティアによる防災対策を行っている
【消防団】防災啓発や、有事の際には救助活動・捜索活動などを行っている 【交通指導員】児童、園児等の登下校における指導を行っている

ｺﾒﾝﾄ：減災に対する物理的備えの補助や啓発活動が地域住民により展開されている

子どもの健全育成

交流館自主グループ	団体	わくわく事業関連団体	2 団体
主任児童委員	2 名	放課後児童クラブ	1 団体
その他団体	1 団体	－	

活動例：【小原ソフトテニス連盟】小中学生を対象に、ソフトテニス教室を開催している
【ごろにゃあご】絵本の読み聞かせや、手遊び、パネルシアター等を行っている

ｺﾒﾝﾄ：子どもの健全育成や、母親同士の仲間づくりが進められている

自治振興

交流館自主グループ	1 団体	わくわく事業関連団体	1 団体
その他団体	1 団体	－	
－		－	

活動例：【小原宣火】手筒花火の製作や実演を行っている
【小原を考える会】小原地域の問題点について議論している

ｺﾒﾝﾄ：地域活性化を目指し、どうすべきかという検討が地域住民の中で行われている

その他１（定住促進）

【定住促進委員会】空き家情報バンク制度の周知や空き家情報の集約、地域・所有者等との調整を行っている
【ようこそおばら委員会】おばらの今を伝える情報誌「おばらのじかん」を定期的に発行している

ｺﾒﾝﾄ：空き家等の確保に向けたハード面と小原に目をむけるきっかけを作るソフト面の双方からの定住施策が展開されている。

その他２（　　）

【　　】

ｺﾒﾝﾄ：

【ｺﾒﾝﾄ（行動２）】
地域住民による、積極的かつ公益性の高い活動が展開されている。特に地域住民が課題と認識している「豊かな自然環境の保全」、「郷土の歴史・伝統・文化の保全と再生」に関する団体が多くあり、行政では手の届かない地域課題の解消に繋がっている。一方で、高齢化や担い手不足が危惧される団体も多い。しかし、専門的な知識、技術を持った経験豊富な団体も多く、こうした団体の活力をまちづくりに活かしていくためにも、団体が継続して活動できるよう支援していく必要がある。

行動３（事業の展開から診る行動面の自治力）

【わくわく事業実績】

事業分類	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
①保健、医療、福祉の推進	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
②地域の伝統、文化、郷土芸能又はスポーツの振興	2	2	3	3	3	2	2	2	2	5
③安心・安全な地域づくり								2	1	1
④地域の生活環境改善、景観づくり 自然環境保全	8	13	8	8	6	8	5	2	3	2
⑤子どもの健全育成	1	3	1	2	1	1	1	1		1
⑥地域の特性を生かした産業振興										1
⑦地域づくりに有効な助言や提案を受けるための事業										
⑧その他個性豊かな住みよい地域社会を構築するための事業		1	1						2	
事業件数（件）	12	20	14	14	11	12	9	8	10	12
実績額（千円）	4,996	4,909	4,990	4,717	4,863	4,950	3,316	3,044	4,155	4,441

※H30は、平成30年7月31日現在

【地域予算提案事業実績】

事業名	事業分類	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
小原地区定住促進計画の策定事業	定住対策	2,604									
これでＯＫまるごと小原（小原ガイドブック）の作成	定住対策		320								
町名・名所案内標識版の設置	観光交流		4,678								
高齢者を地域で支える体制づくり	高齢福祉		1,223	1,397	1,439	1,224	1,202	1,188	1,170	1,149	1,828
コウゾ植栽による小原和紙ブランド化事業	農業振興			458	155	297	724	401	345		
地域で取り組む防災力向上事業	防災対策			4,144							
ごみの不法投棄防止事業	環境対策				362	457	559	382	289		
観光ＰＲ推進事業	観光交流				1,199						
耕作放棄地整備支援事業	農業振興				568	529	627	862	835	415	772
定住促進サポート事業	定住対策					1	451	2	493	656	1,534
生活道路環境整備推進事業	交通安全				10,940	8,317	8,683	8,532	7,951	8,039	9,100
若者のＵターン促進事業	定住対策					1,202	1,487	1,332			
おばら米ブランド化チャレンジ事業	農業振興								329	362	778
杉田久女顕彰事業	文化活動									754	
矢作川水源保全啓発事業	環境対策									16	
おばらマルシェ創出事業	観光交流									340	1,957
四季桜・紅葉の育成体制の構築	観光交流										3,343
実績額（千円）		2,604	6,221	5,999	14,663	12,027	13,733	12,699	11,412	11,731	19,312

※H30は当初予算額

【ｺﾒﾝﾄ（行動３）】
平成25年度に策定した「おばらみらいプラン」（基本構想10年間、前期計画５年）に基づき、目指す将来像の実現に向けて地域住民が実施すべき分野は、わくわく事業、行政が実施すべき分野は地域予算提案事業を活用するなどして、地域と行政の共働による効果的なまちづくりを進めている。しかし、防災対策、子どもの健全育成に関する分野の取組が手薄であり、今後強化していく必要がある。

総　評

小原地区は、平成25年度に地域住民が主体となって策定した「おばらみらいプラン」を地域活動の指針とし、地域と行政の共働によるまちづくりを進めている。アンケートの結果からも地域住民の地域自治に関する意識の高さ、郷土に対する愛着がうかがえる。一方で、人口減少と高齢化が進み、多くの活動で担い手不足・後継者不足という問題を抱えている。

今後は、地域の担い手となる人材を増やすために定住促進の取組を強化する必要がある。その一方で、限られた人材の中で効果的な取組を推進するため、既存の団体の活動と連携した取組を進めるなど、団体の活力やノウハウをまちづくりに生かしていく必要がある。更には、地域の状況変化を的確に捉えたうえで事業や取組の見直しを進めるなど、現存する地域資源（ヒト・モノ・コト）を磨き上げ、生かしあう工夫を凝らしながら、少ない人材でも実践できる効果的なまちづくりを進めていく必要がある。

おばらみらいプランを象徴するロゴマークには、小原地区のシンボルである四季桜の花びらに、様々な表情の顔がデザインされており、みんなの力をあわせていくイメージを表現しています。

小原地区まちづくり計画

おばらみらいプラン後期計画 [2019～2023 年度]

【2019 年 3 月発行】

計画策定：小原地域会議　編集：豊田市役所小原支所

〒470-0592 愛知県豊田市小原町上平 441-1 TEL 0565-65-2001 FAX0565-65-3695

E メール：obara-shisho@city.toyota.aichi.jp